

科目名	HST310: 東洋研究			担当教員	玉置 真紀子	
開講期	春	開講時限	火金2限	研究室	4号館2階 講師控室	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-⑤
キーワード	アジア基層文化、交易、先住民族、植民地化、開発、児童労働、マイクロファイナンス					
授業の概要	西洋から見た「東洋」の自然環境、歴史、宗教、文化、社会を学び、その文化的重層性と多様性を理解する。国際社会の中で、その人口規模からも経済的にも東南アジアの重要性は増している。開発が進むなかで生きる人々の生活を知り、その知恵を学ぶ。同時に、発展の陰で取り残される女性や子どもたちの生活に目を向け、現代社会における数々の課題の原因をふまえ、解決方法を探る。					
達成目標(授業の目的)	東南アジア世界の成立と現代社会を理解し、そこに生きる人々の視点を獲得することで、遠い他者を身近な隣人として考えることを可能にすることが目標である。					
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジアの基層文化と多様性を理解する。</li> <li>・人々の日常生活と経済活動を授業で学んだ用語や概念を用いて分析し、記述できる(評価①)。</li> <li>・開発・発展に伴う貧困や児童労働などの問題群の原因を説明し、解決のための提案ができるようになる(評価②③)。</li> </ul>					
評価方法	① 授業課題：授業内で提出するリアクションペーパー 2%×24回=48% ② 授業内試験：選択式、論述式 22% ③ 定期試験：選択式、論述式 30%					
評価基準	① 授業課題：授業内容を理解した上で、質問に対して(1)論理的に説明すること、(2)具体的に記述すること、を求める。これができていれば2点、感想のみの場合は1点となる。 ②&③ 授業内試験と定期試験：(1)問題に対し適切な解答を、授業で学んだ用語や理論を援用して論理的に説明すること、(2)課題解決型の問題の場合は具体的な解決策を提案すること、(3)自分の経験に引き寄せて検討すること、を求める。感想のみの場合は減点対象とする。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	講義の概要説明、東洋と東南アジアについて	講義、質疑応答	東南アジア各国の位置と成り立ちを確認する
2	東南アジアの自然環境	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキストpp.16-23を読む
3	東南アジアの基層文化	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキストpp.24-36を読む
4	東南アジアの歴史と社会(1)インド化	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキストpp.47-54を読む
5	東南アジアの歴史と社会(2)交易の時代から植民地化へ	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキストpp.55-72を読む
6	東南アジアの歴史と社会(3)脱植民地化から国民国家形成へ	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキストpp.73-79を読む
7	人びとは何を食べてきたかーコメの歴史と棚田のテクノロジー	講義、DVD視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.137-150, pp.297-303を読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	東南アジアの家族観－結婚、家族、親族、子どもの成長	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキストpp.173-179 を読む
9	東南アジアの居住空間－都市と農村	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキストpp.130-136 を読む
10	児童労働とは（1）子どもの権利条約	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
11	児童労働とは（2）児童労働の実態	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
12	児童労働とは（3）農園で働く子どもたち	講義、グループディス カッション、リアクシ ョンペーパー	参考資料を読む
13	児童労働とは（4）子ども兵士	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
14	東南アジアにおける児童労働のまとめ、授 業内試験	講義、質疑応答、授業 内試験（50分）	1～13回の講義を復習する
15	現代東南アジア史におけるキーパーソン	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキストpp.366-412 を読む
16	試験の返却と解説 先住民族と呼ばれる人々	試験返却および解説 講義	テキストpp.252-275 を読む
17	東南アジアの古典文学	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.182-188 を読む
18	東南アジアの宗教（1）仏教、ヒンズー教	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.152-157, pp.166- 172 を読む
19	東南アジアの宗教（2）イスラム教、キリス ト教	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.158-165 を読む
20	大陸東南アジアの現在（1）ラオス	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
21	大陸東南アジアの現在（2）ミャンマー／ビル マ	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
22	マイクロファイナンスを学ぶ（1） マイクロファイナンスの成立と背景	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
23	マイクロファイナンスを学ぶ（2） マイクロファイナンス機関と実践	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
24	マイクロファイナンスを学ぶ（3） 課題と解決に向けて	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
25	東南アジアの移住／移民労働者	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
26	日本で働く東南アジアの人々	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	東南アジア社会における経済と労働問題の まとめ	講義、質疑応答 リアクションペーパー	16～26回の講義を復習する
28	東洋を再考する 定期試験の返却と解説	講義、試験返却、およ び解説	講義の振り返り

テキスト	今井昭夫編『東南アジアを知るための50章』（明石書店）
参考書	大野・鈴木・日下編著『フィリピンを知るための64章』（明石書店） 岩崎育夫『入門 東南アジア近現代史』（ミネルヴァ書房）
その他 特記事項	学習者にとって初めて聞く・見ることばかりの内容になると思います。好奇心を持って臨み ましょう。

科目名	HST301: 英米史				担当教員	森下 園		
開講期	春	開講時限	火金4限		研究室	4202		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	英国史、米国史、英米文化、英米文学							
授業の概要	英国・米国の歴史について、日本語・英語の史資料を読みながら基本的に年代順に見ていく。古代ローマ時代から現代まで、政治史だけではなく、文化的トピックについても取り上げる。歴史の長さから、英国史が全体の3分の2を占めることになる。							
達成目標(授業の目的)	①英米史の授業内容を理解し、適切な質問や意見表明を積極的に授業内でできる。 ②自分の言葉で英米史の授業のポイントを記述できる。 ③特定の事件やトピックの概要や歴史上の意義などについて自分の言葉で説明できる。							
到達目標(学修成果)	①講義前に次の授業プリントについて予習を行い、授業時にわからない点を質問し、意見を求められたときは積極的に表明できるようになる。 ②英米史の授業のポイントを理解し、授業後に提示する課題について自分で史資料を調べ、まとめられるようになる。 ③英米史の流れを理解し、プリントやノートを参照しながら特定の事件やトピックについて概要や歴史上の意義を自分の言葉で説明できるようになる。							
評価方法	①授業での質問・意見(1、2回、最終回を除く): 1%×25回=25% ②授業課題: Moodleで次の授業開始時まで提出。2%×20回=40% ③定期試験: 論述式の試験、授業プリントと自筆ノートのみ参照可。35%							
評価基準	①授業での質問・意見: 積極的に表明しているか、授業内容を理解しようとしているか。 ②授業課題: 自分で調べた内容を自分の言葉でまとめているか、提出期限を守っているか。原則として授業を欠席した回の授業課題は採点対象としない。 ③定期試験: 授業で扱った内容について、適切な用語を用いて論述できているか。  いずれも研究倫理を守らない(友達の問題を写す、またはネット情報や事典類などから無断引用する)場合は0点とする。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	はじめに - UKとUSA	講義、質疑応答	第1回授業内容の復習 第2回授業プリントの予習
2	英: アングロ=サクソン諸王国と北海帝国	講義、質疑応答	第2回授業内容の復習 第3回授業プリントの予習
3	英: 島嶼彩色写本と工芸品	講義、質疑応答	第3回授業課題の提出① 第4回授業プリントの予習
4	英: ノルマン・コンクエストとアンジュー帝国	講義、質疑応答	第4回授業課題の提出② 第5回授業プリントの予習
5	英: アーサー王と円卓の騎士のロマンス	講義、質疑応答	第5回授業課題の提出③ 第6回授業プリントの予習
6	英: 英仏百年戦争と言語	講義、質疑応答	第6回授業課題の提出④ 第7回授業プリントの予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	英：バラ戦争とジェントリ階層の台頭	講義、質疑応答	第7回授業課題の提出⑤ 第8回授業プリントの予習
8	英：ヘンリ7世の対外政策とヘンリ8世の「宗教改革」	講義、質疑応答	第8回授業課題の提出⑥ 第9回授業プリントの予習
9	英：エリザベス女王と海軍の神話化	講義、質疑応答	第9回授業課題の提出⑦ 第10回授業プリントの予習
10	英：中世文学と中世演劇	講義、質疑応答	第10回授業課題の提出⑧ 第11回授業プリントの予習
11	英：内乱と名誉革命	講義、質疑応答	第11回授業課題の提出⑨ 第12回授業プリントの予習
12	英：イングランド銀行と内閣	講義、質疑応答	第12回授業課題の提出⑩ 第13回授業プリントの予習
13	米：アメリカ植民	講義、質疑応答	第13回授業課題の提出⑪ 第14回授業プリントの予習
14	米：アメリカ独立戦争	講義、質疑応答	第14回授業課題の提出⑫ 第15回授業プリントの予習
15	米：南北戦争と奴隷制	講義、質疑応答	第15回授号課題の提出⑬ 第16回授業プリントの予習
16	米：開拓時代とその終焉	講義、質疑応答	第16回授業課題の提出⑭ 第17回授業プリントの予習
17	英：産業革命と万国博覧会	講義、質疑応答	第17回授業課題の提出⑮ 第18回授業プリントの予習
18	英：大英帝国とインド	講義、質疑応答	第18回授業課題の提出⑯ 第19回授業プリントの予習
19	英：「国外」で活躍する女性たち	講義、質疑応答	第19回授業課題の提出⑰ 第20回授業プリントの予習
20	英：大英帝国から英連邦へ	講義、質疑応答	第20回授業課題の提出⑱ 第21回授業プリントの予習
21	米：アメリカの繁栄と移民	講義、質疑応答	第21回授業課題の提出⑲ 第22回授業プリントの予習
22	英米：第一次世界大戦	講義、質疑応答	第23回授業プリントの予習 定期試験の準備
23	英米：第二次世界大戦	講義、質疑応答	第24回授業プリントの予習 定期試験の準備
24	米：公民権運動とネイティブアメリカン問題	講義、質疑応答	第25回授業プリントの予習 定期試験の準備
25	米：冷戦	講義、質疑応答	第26回授業プリントの予習 定期試験の準備
26	英：アイルランド問題	講義、質疑応答	定期試験の準備
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	英米：冷戦終結後の世界	講義、質疑応答	27回授業課題の提出⑳ 28回授業プリントの予習
28	現代のU.K.とU.S.A. 定期試験の講評	講義、質疑応答	授業の振り返り

テキスト	なし。授業内容に関するプリントを Moodle の「2021 短大部 英米史」で配付する。		
参考書	指昭博『図説 イギリスの歴史（増補新版）』（河出書房新社） 紀平英作編『アメリカ史』（山川出版社）		

科目名	HST300: 比較社会史				担当教員	森下 園		
開講期	秋	開講時限	火金3限		研究室	4202		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	社会史、社会構築主義、身分階層、ジェンダー、家族、教育							
授業の概要	社会構築主義の観点から、身分階層、ジェンダー、家族、他者排除、ナショナリズムとグローバリゼーションなどについて講義を行う。地域・時代が異なる事例をトピックごとに取り上げていく。高校レベルの世界史の知識を前提とする。							
達成目標(授業の目的)	社会構築主義に基づく分析に必要な用語・概念を理解し、これらを用いて国内外の社会の諸問題を各自の問題意識と観点から論述できるようにする。							
到達目標(学修成果)	①学生は次回授業プリントを読んで事典類で用語などを調べ、授業課題を書くことで毎回のポイントを把握できるようになる。 ②任意の社会問題について、授業で学んだ用語や概念を用いて分析し、自分の見解を論述できるようになる。							
評価方法	①授業課題：Moodleで次の授業開始時まで提出、3%×25回=75% ②定期試験：論述式、25%							
評価基準	①授業課題：要点を整理して自分の言葉でまとめているか、提出期限を守っているか。なお原則として授業を欠席した回の授業課題は採点対象としない。 ②定期試験：社会問題などの事例について、授業で扱った用語・理論・概念を用いて分析し、自分なりの考察を加えて論述できているか。  いずれも研究倫理を守らない(友達の問題を写す、またはネット情報や事典類などから無断引用する)場合は0点とする。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	社会史と社会構築主義 研究倫理について	講義、質疑応答	第1回授業内容の復習 第2回授業プリントの予習
2	近代の学的知(1)歴史学	講義、質疑応答	第2回授業課題の提出① 第3回授業プリントの予習
3	近代の学的知(2)英文学と比較文学	講義、質疑応答	第3回授業課題の提出② 第4回授業プリントの予習
4	近代の学的知(3)文化人類学・自然人類学	講義、質疑応答	第4回授業課題の提出③ 第5回授業プリントの予習
5	近代の学的知(4)ジェンダー・スタディーズ	講義、質疑応答	第5回授業課題の提出④ 第6回授業プリントの予習
6	王権(1)西欧の王 — 皇帝と王	講義、質疑応答	第6回授業課題の提出⑤ 第7回授業プリントの予習
7	王権(2)日本の王 — 天皇と将軍	講義、質疑応答	第7回授業課題の提出⑥ 第8回授業プリントの予習
8	身分階層(1)身分と社会的ステータス	講義、質疑応答	第8回授業課題の提出⑦ 第9回授業プリントの予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	身分階層（2）カースト制	講義、質疑応答	第9回授業課題の提出⑧ 第10回授業プリントの予習
10	教育と学校 ― 教育の誕生と文化資本	講義、質疑応答	第10回授業課題の提出⑨ 第11回授業プリントの予習
11	女性と職業 ― 働くミドルクラス女性	講義、質疑応答	第11回授業課題の提出⑩ 第12回授業プリントの予習
12	家族と社会（1）近代英国	講義、質疑応答	第12回授業課題の提出⑪ 第13回授業プリントの予習
13	家族と社会（2）近代日本	講義、質疑応答	第13回授業課題の提出⑫ 第14回授業プリントの予習
14	女性のイメージ ― 近代英国と日本の女性向けメディアが構築したもの	講義、質疑応答	第14回授業課題の提出⑬ 第15回授業プリントの予習
15	スティグマの付与（1）聖女と魔女	講義、質疑応答	第15回授業課題の提出⑭ 第16回授業プリントの予習
16	スティグマの付与（2）アウトサイダー	講義、質疑応答	第16回授業課題の提出⑮ 第17回授業プリントの予習
17	死者との交流（1）西欧の幽霊	講義、質疑応答	第17回授業課題の提出⑯ 第18回授業プリントの予習
18	死者との交流（2）日本の幽霊	講義、質疑応答	第18回授業課題の提出⑰ 第19回授業プリントの予習
19	他者イメージと自己イメージの構築	講義、質疑応答	第19回授業課題の提出⑱ 第20回授業プリントの予習
20	言語（1）標準語の問題	講義、質疑応答	第20回授業課題の提出⑲ 第21回授業プリントの予習
21	言語（2）クレオール	講義、質疑応答	第21回授業課題の提出⑳ 第22回授業プリントの予習
22	法と秩序	講義、質疑応答	第22回授業課題の提出㉑ 第23回授業プリントの予習
23	無縁とアジール	講義、質疑応答	第23回授業課題の提出㉒ 第24回授業プリントの予習
24	ナショナリズム（1）日本人とは誰か	講義、質疑応答	第24回授業課題の提出㉓ 第25回授業プリントの予習
25	ナショナリズム（2）想像の共同体	講義、質疑応答	第25回授業課題の提出㉔ 第26回授業プリントの予習
26	記憶と記録	講義、質疑応答	第26回授業内容の復習 定期試験の準備
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	サブカルチャーとしてのマンガとアニメ	講義、質疑応答	第27回授業課題の提出㉕ 第28回授業プリントの予習
28	社会構築主義の応用 定期試験の返却と講評	講義、質疑応答	授業の振り返り
テキスト	なし。授業内容に関するプリントを Moodle の「2021 短大部 比較社会史」で配付する。		
参考書	上野千鶴子『構築主義とは何か』（勁草書房）		

科目名	INT301: 国際関係論			担当教員	辛 女林	
開講期	春/秋	開講時限	月木3限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-⑤
キーワード	国際政治、グローバル社会、日本の国際関係					
授業の概要	国際関係論の入門科目。国際関係の歴史、理論・概念、グローバルイシューなどについて講義を行う。また、授業中には新聞記事や映像資料を用いてディスカッションする時間を設け、学生自ら考える授業を目指す。					
達成目標(授業の目的)	授業内容を通じて国際関係論という学問及び学術的用語を理解する。その過程で、抽象的な理論・概念を具体的な事例に適用し、逆に具体的な事例から抽象的な概念を引き出すなど、考える力を身につける。					
到達目標(学修成果)	1. 国際関係論の基礎的な知識を習得する。(評価基準1及び2) 2. 資料収集及びその資料を一定の観点に沿ってまとめることができる。(評価基準3及び4) 3. 関心分野に学習した内容を適用し、事実に基づいて自分の考えを展開することができる。(評価基準3及び4)					
評価方法	1. 授業参加 10% 2. 授業内試験2回 各25% 3. グループ・プレゼンテーションに関連する個人課題 15%(個人評価) 4. グループ・プレゼンテーション 25%(グループ評価)					
評価基準	1. 授業参加: 質疑応答、ディスカッション参加など。 2. 授業内試験: 授業内容を正確に理解しているか。 3. グループ・プレゼンテーションに関連する個人課題: 適切な資料調査及び内容の一貫性。 4. グループ・プレゼンテーション: 授業内容の適用した問題提起及び事実関係の整理。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業のガイダンス及び現在の国際社会について	講義	2回の授業資料を読む(予習)
2	今の「国家」ができるまで	講義 ディスカッション	3回の授業資料を読む(予習)
3	現代の「国際関係」はどうできたのか	講義 ディスカッション	1～3回の内容を復習 4回の授業資料を読む(予習)
4	現状をどう見るか1: パワーを中心に	講義 ディスカッション	5回の授業資料を読む(予習)
5	現状をどう見るか2: 利益を中心に	講義 ディスカッション	6回の授業資料を読む(予習)
6	現状をどう見るか3: 規範/従属	講義 ディスカッション	4～6回の内容を復習 7回の授業資料を読む(予習)
7	国際関係と経済	講義 ディスカッション	7回の内容を復習 8回の授業資料を読む(予習)
8	戦争のない国際社会のために	講義 ディスカッション	9回の授業資料を読む(予習)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	日米安全保障協力	講義 ディスカッション	10回の授業資料を読む（予習）
10	「核」にどう向き合うのか	講義 ディスカッション	11回の授業資料を読む（予習）
11	新しい脅威に対応どう対応するか	講義 ディスカッション	復習及び試験の準備
12	授業内試験、 プレゼンテーションのグループワーク	試験、 グループワーク	プレゼンテーションについての準備
13	紛争の実例	映像資料観覧 講義	14回の授業資料を読む（予習）
14	紛争の背景にあるもの	講義 ディスカッション	15回の授業資料を読む（予習）
15	平和構築	講義 ディスカッション	14～15回の内容を復習 16回の授業資料を読む（予習）
16	「国家」以外のアクターとその役割	講義 ディスカッション	17回の授業資料を読む（予習）
17	国家間統合は可能なのか―EUを中心に	講義 ディスカッション	18回の授業資料を読む（予習）
18	技術・エネルギーをめぐる 이슈	講義 ディスカッション	19回の授業資料を読む（予習）
19	「人」に関する議論―難民・人の移動・人権	講義 ディスカッション	20回の授業資料を読む（予習）
20	領域をめぐる 이슈	講義 ディスカッション	21回の授業資料を読む（予習）
21	環境問題をどう解決するか	講義 ディスカッション	22回の授業資料を読む（予習）
22	開発支援についての様々な見方	講義 ディスカッション	23回の授業資料を読む（予習）
23	韓国の政治・経済（北朝鮮問題を含む）	講義 ディスカッション	24回の授業資料を読む（予習）
24	日韓関係―東アジアにおける重要性	講義 ディスカッション	23～24回の内容を復習
25	グループ・プレゼンテーション	プレゼンテーション 質疑応答	プレゼンテーションの準備
26	グループ・プレゼンテーション	プレゼンテーション 質疑応答	プレゼンテーションの準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	授業内試験、プレゼンテーションに対する 評価・フィードバック	試験、講義	試験の準備
28	授業の総括、レポート作成のアドバイス	講義	復習

テキスト	授業内容をまとめた資料を事前に LOYOLA 又は MOODLE にアップする。その他のディスカッション資料（新聞記事や文献の一部）は授業中に配布する。
参考書	村田晃嗣他『国際政治学をつかむ（新版）』（有斐閣）2015年 滝田賢治他『国際関係学―地球社会を理解するために（第2版）』（有信堂）2017年



科目名	ANT200: 文化人類学				担当教員	C. Oliver	
開講期	秋	開講時限	火金3限		研究室	4205	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				3-④, 4-⑤	
キーワード	cultural anthropology, culture, fieldwork, understanding others, interview research						
授業の概要	This course provides an introduction to cultural anthropology. Regular class sessions will consist of lectures, watching scenes from films, and discussions among students. Examples will come from many parts of the world, including Indonesia, Mexico, Papua New Guinea, Iran, North America, and sub-Saharan Africa. Each student will do an interview project (with a written report) and discuss the findings in class. All lectures, assignments, and tests will be in English.						
達成目標(授業の目的)	This course will help students understand what cultural anthropologists study and how they study it. Students will also be able to develop their own research skills.						
到達目標(学修成果)	By the end of the semester, students should be able to: <ul style="list-style-type: none"> <li>• understand key ways that anthropological study differs from that of other social sciences;</li> <li>• understand broadly the range of topics often studied in anthropology;</li> <li>• understand and explain the significance of key examples of those topics;</li> <li>• understand key anthropological concepts and apply them to cultural processes;</li> <li>• use careful observation and inference-making to gain cultural understanding;</li> <li>• ask good questions for doing qualitative, interview research.</li> </ul>						
評価方法	Participation 10%; Homework 30%; Interview Project, including written report 30%; Tests 30%.						
評価基準	Participation: Active participation in everyday class activities, including discussions. Homework: Submitted on time and completed thoroughly, shows adequate understanding and application of key concepts, demonstrates careful observation and inference-making. Interview Project: Each part submitted on time and according to instructions, demonstrates good interview research questions as well as careful observation and inference-making. Tests: Demonstrate understanding of how anthropological study differs from that of other social sciences, understanding of the range of topics studied in anthropology, understanding and ability to explain the significance of key examples, understanding and ability to apply key concepts, and careful observation and inference-making.						
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	What is cultural anthropology?	lecture	Review syllabus, read pp. 2 & 73-74
2	Culture: definitions and examples	lecture, pair work	Read pp. 34-41
3	Anthropological research: fieldwork	lecture, video, pair work	Read pp. 13, 21-24 (also skim pp. 1-12 for homework)
4	Anthropological research: dialogue	lecture, video, pair work	Complete homework about textbook authors' fieldwork
5	Doing qualitative interviews: the basics	interview practice with another student	Read handout provided by the teacher
6	Religion: general approach	lecture, video, pair work	Complete interview practice worksheet
7	Interview Project planning (interview project will be explained)	lecture, small-group discussion	Read handout about Interview Project

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Religion: “witchcraft” in Africa	lecture, pair work	Read pp. 123-125
9	Ritual: general concepts	lecture, video, pair work	Complete HW about objective / subjective information
10	Ritual: what do rituals “do”?	lecture, video, pair work	Read pp. 123-125
11	Marriage and family: cultural arrangements	lecture, pair work	Read pp. 75-81, 86-87; complete HW about film, HW about marriage practices
12	Doing qualitative interviews: strategies for asking good questions	interview practice with another student	Read handout provided by the teacher
13	Gift-giving and exchange: general concepts	lecture, pair work	Complete interview practice worksheet
14	Gift-giving and exchange: <i>potlatch</i> (also: discuss Interview Project topics)	lecture, video, small-group discussion	Read pp. 109-112, 115-117; complete Interview Project topic
15	Gift-giving and exchange: <i>kula</i>	lecture, simulation (role-play)	Read pp. 109-112, 115-117
16	Culture and person / self: general concepts	lecture, pair work	Read pp. 131-141
17	Culture and person / self: cultural variations	lecture, pair work	Complete worksheet on Ch. 8
18	Review, Test #1	lecture, test	Study for test
19	Health, illness, and medicine: key concepts	lecture, pair work	Read pp. 136-140
20	Health, illness, and medicine: culture-bound syndromes	lecture, pair work	Complete homework on culture-bound illnesses
21	Social class: cultural dimensions	lecture, video, pair work	Read pp. 93, 103
22	Discuss Interview Project findings (based upon each student’s completed interview)	small-group discussion	Complete interview; prepare copy of actual interview notes
23	Identity: individual and collective; return Test #1 and go over results	lecture, pair work	Read pp. 92-94, 96-100
24	Nation and culture: what holds society together?	lecture, pair work	Read pp. 63-64, 89-90, 96-100
25	Globalization and transnationalism: anthropological approaches	lecture, pair work	Read pp. 103-106
26	Review, Test #2	lecture, test	Study for test
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Watch film: “Children of Heaven” (making observations, forming inferences)	pair work, watch video while taking notes	Complete Fact Sheet on Iran, Interview Project report
28	Discuss film: observations / inferences; return Test #2 and go over results	small-group discussion, lecture	Complete worksheet about the film

テキスト	J. Monaghan & P. Just. <i>Social &amp; Cultural Anthropology: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
参考書	H. Peters-Golden. <i>Culture Sketches: Case Studies in Anthropology</i> (McGraw-Hill).
その他特記事項	Lectures, assignments, and tests will be in English. Each student must do an Interview Project that requires finding a suitable person to interview and interviewing that person outside of class.

科目名	ART200: 現代美術				担当教員	G. Freddes	
開講期	春	開講時限	火金2限		研究室	4号館2階 講師控室	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				3-④, 4-⑤	
キーワード	Romanticism, Japonisme, Modernism, Modern Art, Contemporary Art, Post-Modernism						
授業の概要	This course will explore developments in art from the 19 <sup>th</sup> to the 21 <sup>st</sup> Century. Each class will begin with a lecture and / or video on an artist, period, or style. This will be followed by readings pertaining to the lecture and discussion in small groups. Every class will conclude with students writing comments on class content and their online research. Students will be required to conduct research in areas of personal interest, visit two museums and submit two written reports in English.						
達成目標(授業の目的)	Students will acquire a fundamental knowledge of major artists and art movements of the past 200 years. They will learn the vocabulary of art and various ways of looking at art by considering its formal characteristics, materials, and cultural / historical contexts. The course aims to support students in developing insights into how the rapidly changing modern world has affected individual artists and how they, in turn, have influenced and shaped the world in which we live.						
到達目標(学修成果)	By the end of this course students will be able to recognize many of the most important modern artists. They will be able to describe the works' formal characteristics, materials, and possess some understanding of its cultural / historical significance. Ultimately, students will be able to enjoy visiting museums, viewing new works, and more confidently express personal opinions.						
評価方法	Participation and Written Reactions (40%) Midterm Report (25%) Final Report (35%)						
評価基準	Participation, Written Reactions (Note-taking during lecture, involvement in discussions and art-making activities, effort in answering all written reactions using vocabulary learned in class and expressing a personal opinion of the artworks seen in class, online research summary) Midterm Report (at least 600 words) Final Report (at least 800 words) Guidelines for both are the same. (1) Choose an artist of interest and research his / her life. Write the artist's biography. (2) Choose at least six works by the artist and, using vocabulary learned in class, describe the works in detail. Write a conclusion including what you learned about the artist. (3) Visit a museum and report on what you saw. Choose at least five works seen and write in detail about each of them, including materials, formal characteristics, the work's cultural / historical context, and a personal opinion.						
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course Introduction. What is Modern Art? The Louvre, Orsay, and Beauborg Museums	Lecture, video, reading, writing, online sources	Read textbook pp. 66-71 Visit the 3 museum's websites
2	Introduction to the textbook, online resources, and art vocabulary	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 76-78 Review, View online sources
3	The Nineteenth Century: Birth of the "Isms" Neoclassicism and Romanticism	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 74-75, 79-80 Review, Online research
4	Romanticism: Goya, Turner, Chopin, Verdi	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 81-88 Review, Online research
5	Nineteenth Century Japan: Ukiyo-e, Hokusai	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 89-91 Review, Online research
6	The Industrial Revolution: Early Modern Architecture, Japonisme, Art Nouveau	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 92-95 Review, Online research
7	The Birth of Photography: Inventors, Pioneers, Travel, War, Documentary, Portrait, Art	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 96-103 Review, Online research

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Impressionism: Manet, Monet	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 104-109 Review, Online research
9	Impressionism: Renoir, Degas, Cassatt, Morisot	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 110-113, 133 Review, Online research
10	Modern Sculpture: Rodin vs. Brancusi	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 114-115 Review, Online research
11	Post-Impressionism: Seurat, Lautrec	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 118-122 Review, Online research
12	Post-Impressionism: Gauguin, Van Gogh	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Bring colored pencils, markers, and / or pastels to class
13	Van Gogh: “The Sunflowers”	Art making activity	Read text pp. 123-125 Review, Online research
14	Early Expressionism: Munch, M-Becker Symbolism: Rousseau, Redon	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 128-133 Review, Online research
15	Fauvism: Matisse, Vlaminck, Derain, Dufy	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Submit Midterm Report; Bring Scissors, glue, colored paper
16	Matisse cutouts: Create a class mural	Art making activity	Read pp. 116-117, 136-138 Review, Online research
17	Cezanne, Picasso	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 139-145 Review, Online research
18	Futurism; Constructivism	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 146-147 Review, Online research
19	Modernist Architecture: Le Corbusier	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text p. 148 Review, Online research
20	Dada: Duchamp, Arp, Schwitters	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 149-151 Review, Online research
21	Surrealism: Miro, Ernst, Dali, Magritte	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 152-153 Review, Online research
22	20 <sup>th</sup> Century Photography: Cartier-Bresson	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 158-163 Review, Online research
23	Figural and Abstract Expressionism	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 172-176 Review, Online research
24	Pre-Pop and Pop Art	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 177-179 Review, Online research
25	Minimal and Conceptual Art	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 188-189 Review, Online research
26	Post-Modernism: Diversity	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 194-200 Submit Final Report w. P.A.R.
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Recent Trends 1990-2000	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Skim text from p. 200 to the end Review, Online research
28	Recent Trends 2001-2020	Lecture, slideshow, Course Survey	Last chance to submit the Final Report (will not be returned)

テキスト	Carol Strickland. <i>The Annotated Mona Lisa, Third Edition</i> (Andrews and McMeel).
参考書	<i>The Letters of Vincent Van Gogh</i> Online The Museum of Modern Art: Online Collection
その他 特記事項	All lectures and student writing will be entirely in English. Videos: English / Bilingual / Japanese And, as mentioned above, students must visit two museums and write two reports in English.

科目名	EDU302: 比較・国際教育学				担当教員	杉村 美佳		
開講期	春	開講時限	火金4限		研究室	4220		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	教育の国際比較、教育問題、教育制度、教育政策、開発と教育、グローバル化と教育							
授業の概要	先進国と途上国における教育の現状や課題について、歴史、政治、経済、文化等と関連付けて概観し、比較・国際教育学の基礎理論を理解する。さらに、今日的教育課題である多文化教育、シティズンシップ教育、開発教育や国際教育協力等のあり方を国際的視点から考察する。最後に教育の国際比較をテーマにレジュメを作成し、プレゼンテーションを行う。							
達成目標(授業の目的)	比較・国際教育学の基礎理論を理解し、日本と諸外国の教育の現状や課題について、歴史的、政治的、経済的、文化的背景と関連付けて考察し、国際的視野から教育問題の解決に向けた方策を論じられるようになることを目標とする。							
到達目標(学修成果)	①日本と諸外国の教育制度や教育政策、教育問題等について、歴史、政治、経済、文化等と関連付けて考察する力を身につけ、比較・国際教育学の基礎理論を習得する。 ②比較・国際教育学的視点から教育事象を論理的、批判的に分析し、教育問題の解決に向けた方策を考察することができる。 ③各国の教育の現状や課題について、文献の内容をまとめてレジュメを作成し、効果的に発表し、議論することができる。							
評価方法	①授業時に課すリアクション・ペーパー(30%)、②レジュメ(15%)、③プレゼンテーション(15%)、④授業内試験(40%)							
評価基準	①リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ②レジュメ：設定したテーマに即して参考文献の内容を的確にまとめ、教育事象を論理的、批判的に考察できているか。 ③プレゼンテーション：パワーポイントなど発表を効果的にする資料を準備し、研究内容をわかりやすく伝える工夫をしているか。 ④授業内試験：授業内容を理解し、設問に対して正確に解答できているかを評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	比較教育学の歴史的展開と課題	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付プリントの要約・考察
2	国際教育学の歴史的展開と課題	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教育の国際組織を調べる 配付プリントの要約・考察
3	教育制度の国際比較(1) —就学率・識字率—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	識字率について調べる 配付プリントの要約・考察
4	教育制度の国際比較(2) —学校教育制度の類型—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	英文記事の和訳 配付プリントの要約・考察
5	教育制度の国際比較(3) —教育制度改革の焦点—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	配付記事の要約・考察 配付プリントの要約・考察
6	先進国と途上国における児童労働の現状と撲滅に向けた課題	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	児童労働について調べる 配付プリントの要約・考察
7	先進国における学校化社会と学歴(1) —学校化社会と学歴社会—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	学歴社会について調べる 配付プリントの要約・考察

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	先進国における学校化社会と学歴（2） —ヨーロッパの非学歴社会—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付記事の要約・考察 配付プリントの要約・考察
9	先進国における生涯学習社会	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	配付記事の要約・考察 配付プリントの要約・考察
10	発展途上国における識字教育（1） —非識字者の分布と構成—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	識字教育について調べる 配付プリントの要約・考察
11	発展途上国における識字教育（2） —識字教育の取り組み—	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	SDGs について調べる 配付プリントの要約・考察
12	先進国における国民統合と学校教育（1） —新自由主義的教育政策—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	新自由主義について調べる 配付プリントの要約・考察
13	先進国における国民統合と学校教育（2） —多文化共生教育—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付資料の要約・考察 配付プリントの要約・考察
14	多文化教育の国際比較	講義・ディスカッション リアクションペーパー	多文化教育について調べる 配付プリントの要約・考察
15	発展途上国における国民統合と学校教育 —マレーシアを中心に—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付資料の要約・考察 配付プリントの要約・考察
16	ヨーロッパのシティズンシップ教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	市民教育について調べる 配付プリントの要約・考察
17	開発と教育（1） —開発教育—	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	開発教育について調べる 配付レジュメの要約・考察
18	開発と教育（2） —国際教育協力—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	国際教育協力を調べる 配付レジュメの要約・考察
19	開発と教育（3） —JICA による国際教育協力の実態—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	JICA について調べる 配付レジュメの要約・考察
20	欧米の自由教育	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	自由教育について調べる 配付レジュメの要約・考察
21	小括と授業内試験	講義・質疑応答・ 授業内試験	20 回目までの授業内容の復習
22	試験の返却と解説・プレゼンテーションの準備	講義・質疑応答・ リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
23	アジアの教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
24	中東の教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
25	西ヨーロッパの教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
26	北ヨーロッパの教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	アフリカの教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
28	北米・中南米の教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習

テキスト	なし。毎回書き込み式講義ノートと新聞記事などの資料を配付する。		
参考書	石附 実『比較・国際教育学』（東信堂） 二宮 皓編著『世界の学校』（学事出版）		
その他 特記事項	JICA からゲストスピーカーを招き、日本の国際教育協力の実態について講義を行う。		

科目名	PHL210: 倫理学			担当教員	丹木 博一	
開講期	秋	開講時限	火金4限		研究室	4214
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー
						P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	1,4	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				1-①, 4-⑤
キーワード	権利、所有、契約、主権、義務、自由、平和					
授業の概要	倫理学の歴史を幅広く概観し、個人と社会の望ましい関係はどのようなものか、また社会において私はいかに生きるべきかについて講義とディスカッションを通して考察する。					
達成目標(授業の目的)	「社会の中で人生をいかに生きるべきか」という問いを真剣に問い進め、自分の考えを築き上げることができる。					
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理学の歴史に登場する基本的な概念と学説を正しく把握し、それを表現できる。</li> <li>・行為選択の倫理的規範についての近現代の主要な議論を理解し、正しく表現できる。</li> <li>・倫理的な問いを提起し、その問いに関する自分自身の考えを説明できる。</li> </ul>					
評価方法	①提出課題(17%)、②リアクションペーパー(28%)、③中間レポート(2,000字以上)(25%)、④定期試験(選択式問題と小論文)(30%)					
評価基準	①提出課題: 事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。 ②リアクションペーパー: 授業で説明された倫理学の基本的な概念と学説の意味を、自分の言葉で正しく論述できるかどうか。 ③中間レポート: 倫理学説を一つ取り上げ、それが行為選択のための倫理規範をどのように考えているかを自分の言葉でわかりやすく説明した上で、自分の意見を論述展開できるかどうか。 ④定期試験: 定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。 (i) 選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。(30%のうちの10%) (ii) 700～800字の小論文を作成してもらう。13回目以降の授業で取り上げた倫理学者のなかから一人を選び、その学説のポイントを説明した上で、理由を挙げて賛否を述べること。(30%のうちの20%)					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	導入 倫理学とは何か	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.1-20をていねいに読んでおく。
2	法・政治・経済・宗教と倫理	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.20-44をていねいに読み、要約を提出する。
3	社会契約論	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.45-66をていねいに読み、要約を提出する。
4	義務倫理学	講義・DVD視聴・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.66-81をていねいに読み、要約を提出する。
5	功利主義	講義・DVD視聴・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.81-95をていねいに読み、要約を提出する。
6	共感理論	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.95-104をていねいに読み、要約を提出する。
7	徳倫理学	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.105-117をていねいに読んでおく。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	責任倫理とケアの倫理	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.117-124 をていねいに読み、要約を提出する。
9	ひととひと	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.125-166 をていねいに読み、要約を提出する。
10	ひととその体	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.167-208 をていねいに読み、要約を提出する。
11	ひととひとでないもの	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.209-252 をていねいに読んでおく。
12	倫理の根拠への問い	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.253-269 をていねいに読み、要約を提出する。
13	ソクラテスの問い「いかに生きるべきか」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.9-35 と pp.381-390 を読んでおく。
14	利己主義的考慮と倫理的考慮	講義・ディスカッション リアクションペーパー	中間レポート提出。教科書②pp.36-55 を読んでおく。
15	倫理に関するアルキメデスの支点	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.56-71 をていねいに読み、要約を提出する。
16	幸福と徳 中間レポートの講評	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.72-91 をていねいに読んでおく。
17	アリストテレスの目的論的思考	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.91-115 をていねいに読み、要約を提出する。
18	基本的自由への権利	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.116-136 をていねいに読んでおく。
19	私にとっての実践的熟慮	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.136-148 をていねいに読み、要約を提出する。
20	ロールズの契約論	講義・DVD視聴・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.149-176 をていねいに読んでおく。
21	ヘアーの功利主義	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.176-188 をていねいに読んでおく。
22	理論と直観の間の反省的均衡	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.189-211 をていねいに読み、要約を提出する。
23	理論と偏見	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.211-237 をていねいに読み、要約を提出する。
24	言語論的転回	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.238-260 をていねいに読み、要約を提出する。
25	客観性をめぐる議論	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.261-284 をていねいに読み、要約を提出する。
26	倫理的思考の本性	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.284-303 をていねいに読み、要約を提出する。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	相対主義と反省	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.304-337 を読んでおく。
28	道徳的義務と重要性という概念 試験の返却、および講評	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.338-390 を読んでおく。

テキスト	①品川哲彦『倫理学入門』（中公新書） ②バーナド・ウィリアムズ『生き方について哲学は何が言えるか』（ちくま学芸文庫）
参考書	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（ハヤカワ文庫） 加藤尚武『現代倫理学入門』（講談社学術文庫）
その他 特記事項	主体的な関心をもって授業に臨んで欲しい。分からない点や疑問がある場合は、どんどん質問してもらいたい。



科目名	SOC301: 平和と開発				担当教員	Thomas
開講期	秋	開講時限	火金4限		研究室	4211
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				3-④, 4-⑤
キーワード	sustainable development, poverty eradication, universal education, gender equality, global partnership					
授業の概要	This course deals in detail with the “Sustainable Development Goals (SDGs)” initiated by the United Nations Organization in the year 2015. It will cover the seventeen SDGs and one hundred sixty nine targets and how they are built upon the “Millennium Development Goals” which ended in 2015. As part of assignments, students will be required to choose one of the seventeen goals and study how it is being implemented in one of the developing countries. Students are required to read the handouts beforehand and prepare for discussion in class.					
達成目標(授業の目的)	The general goals of this course are (1) to study the tasks left behind by the MDGs after fifteen years of hard labor to eradicate extreme poverty and (2) to learn the relevance of SDGs in the next fifteen years for the world, (3) to research on particular issues related to SDGs in different developing countries especially Africa and Asia today, and (4) to know the interrelatedness of development and peace.					
到達目標(学修成果)	By the end of this course students will <ul style="list-style-type: none"> <li>• acquire a deeper understanding of the achievements of MDGs</li> <li>• know how MDGs led the world leaders to plan SDGs for the globe</li> <li>• know the importance of MDGs and SDGs for the future of the world</li> <li>• increase their awareness of critical issues in developing countries</li> <li>• improve their ability to do research on issues related to peace and development</li> <li>• learn to cooperate and contribute to group discussion and active class participation</li> </ul>					
評価方法	Class participation (40%), quizzes (20%), Presentation (20%), Research report (20%)					
評価基準	To be distributed at the first class.					
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction to the course, course materials, class policies, evaluation criteria	lecture, discussion, Q&A	read syllabus
2	Developed countries and developing countries, OCED, G8, G20, BRICS	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
3	What is development? Relation between development and peace	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
4	Introduction to Millennium Development Goals (MDGs), history of MDGs, quiz	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for quiz
5	Achievements of MDGs – Goals 1 - 4	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
6	Achievements of MDGs – Goals 5 - 8	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
7	From MDGs to Sustainable Development Goals (SDGs), quiz	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for quiz
8	SDG 1: No poverty	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	SDG 2: Zero hunger	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
10	SDG 3: Good health and well-being	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
11	SDG 4: Quality education, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
12	SDG 5: Gender equality, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
13	SDG 6: Clean water and sanitation, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
14	SDG 7: Affordable and clean energy, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
15	SDG 8: Decent work and economic growth, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
16	SDG 9: Industry, innovation and infrastructure, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
17	SDG 10: Reduced inequalities, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
18	SDG 11: Sustainable cities and communities, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
19	SDG 12: Responsible consumption and production, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
20	SDG 13: Climate action, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
21	SDG 14: Life below water, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
22	SDG 15: Life on land, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
23	SDG 16: Peace, justice and strong institutions, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
24	SDG 17: Partnerships for the goals, presentation by students	lecture, reading, presentation, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
25	Research presentation by students	group work, discussion	prepare for presentation
26	Development theories and quality of life	lecture, reading, discussion	read handouts, do preview sheet
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Challenges faced by SDGs: employment, education	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
28	Challenges faced by SDGs: politics, international cooperation	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion

テキスト	Materials adapted from <i>The 2030 Agenda for Sustainable Development</i> and <i>The Sustainable Development Goals Report 2021</i> and <i>The Millennium Development Goals Report 2015</i> will be distributed in class.
参考書	Rorden Wilkinson and David Hulme (Eds.). <i>The Millennium Development Goals and Beyond</i> (Routledge).

科目名	LIT323: イギリスの文化と文学			担当教員	山本 浩	
開講期	春	開講時限	月木5限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-⑤
キーワード	イギリスの4つの国、英語、階級、教育、キリスト教、芸術、メディア、食文化					
授業の概要	イギリス(連合王国)を構成している England, Scotland, Wales, Northern Ireland とその民族、England の言語である英語の歴史と特徴、イギリス社会の中で階級がもつ意味、イギリスの初等・中等教育と高等教育の歴史と現在、イギリスのキリスト教の歴史、イギリスの芸術(とくに美術と演劇)、イギリスの新聞と放送の特徴、イギリスの食事と紅茶文化について学び、同時に、それに関連した文学作品を読む。					
達成目標(授業の目的)	イギリスと英語を理解するために、イギリスの文化のいろいろな面について学び、イギリスがどのような国であり、英語がどのような言語であるかが分かるようになることを目的とする。					
到達目標(学修成果)	イギリスの4つの国とその民族、英語の成り立ち・発展・現状、イギリス社会の階級、イギリスの教育、イギリスのキリスト教、イギリスの芸術、イギリスのメディア、イギリスの食文化について十分な理解があり、また、イギリス文学の中でそれらがどのように扱われているかを作品を通して理解できるようになっていることを到達目標とする。					
評価方法	テストおよび定期試験 50% 小論文 30% 授業への積極参加 20%					
評価基準	テストおよび定期試験: 授業で取り上げた4つの国、英語の歴史、階級、教育、キリスト教、芸術、メディアなどの基本的な事柄をよく理解しているかを見る。 小論文: 課題に沿った内容であるか、よく考えられた議論を展開しているかを見る。 授業への積極参加: 授業での質問・発言・意見表明など(リアクション・ペーパーの記述を含む)を積極的に行ったかを見る。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	イギリスの4つの国と民族(古代～中世)	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
2	イギリスの4つの国と民族(近代～現代)	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
3	イギリスの4つの国についての評論文	“Being British”の講読と研究	事前に“Being British”を読む
4	英語の歩み(Old EnglishからMiddle Englishへ)	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
5	英語の歩み(Middle EnglishからModern Englishへ)	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
6	OE、ME、ModEの実例	OE、ME、ModEの「主の祈り」を読む	事前に「主の祈り」(日本語および現代英語)を読む
7	イギリス社会の階級(階級とは何か)	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
8	イギリス社会の階級(階級と英語)	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	D. H. Lawrence, <i>Sons and Lovers</i> に見られる階級	<i>Sons and Lovers</i> の抜粋の講読と研究	事前に <i>Sons and Lovers</i> の翻訳を読む
10	テスト①（45分）と1回～9回の授業の復習（45分）	テスト実施と復習	テストの準備学習をする
11	テスト①のふりかえり	テストの返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
12	イギリスの教育（初等・中等教育）	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
13	イギリスの教育（高等教育）	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
14	Roald Dahl, <i>Boy</i> に見られるイギリスの教育	Roald Dahl, <i>Boy</i> の講読と研究	事前に <i>Boy</i> の翻訳を読む
15	イギリスのキリスト教（古代～中世）	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
16	イギリスのキリスト教（宗教改革～現代）	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
17	Graham Greene, <i>The End of the Affair</i> に見られるキリスト教	<i>The End of the Affair</i> の講読と研究	事前に <i>The End of the Affair</i> の翻訳を読む
18	イギリスの芸術（美術）	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
19	イギリスの芸術（演劇）	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
20	イギリス演劇の一例として Harold Pinter, <i>Family Voices</i> を読む	<i>Family Voices</i> の講読と研究	事前に <i>Family Voices</i> の翻訳を読む
21	テスト②（45分）と12回～20回の授業の復習（45分）	テスト実施と復習	テストの準備学習をする
22	テスト②のふりかえり	テストの返却、および解説と質疑応答	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
23	イギリスのメディア（新聞）	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
24	イギリスのメディア（ラジオ・TV）	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
25	イギリスの食文化	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
26	George Orwell, “A Nice Cup of Tea” を読む	“A Nice Cup of Tea” の講読と研究	事前に “A Nice Cup of Tea” の翻訳を読む
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	定期試験のふりかえり	定期試験の返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
28	小論文の講評	小論文を返却し講評する	返却された小論文を読み直す
テキスト	とくに使用しない。受講する学生は事前にパワーポイントのファイルをダウンロードして、授業前によく読んでおくこと。授業には、ファイルをプリントしたものを持参すること。		
参考書	『イギリス文化事典』（丸善出版）		

科目名	LIT310: 英詩研究				担当教員	飯田 純也		
開講期	秋	開講時限	火金2限		研究室	4号館2階 講師控室		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	詩、詩人、モラル、ダンテ、煉獄、死者の声、戦争、平和、内戦、虐殺、イデオロギー							
授業の概要	詩は人類が学んだ教訓を記憶に刻む。詩とは何か踏まえた上で、次に世界の詩人に影響を与えたイタリアの詩人ダンテの代表作『神曲』を概観する。そして最後、極限状況で詩を書いた世界の詩人たちの詩を英語訳で読み、あらためて詩とは何か問う。最終的に各自小論文 no. 1-3 でまとめた内容を振り返り、期末レポート(4,000字以上)を提出する。							
達成目標(授業の目的)	授業の目標は、差別、迫害、暴力、戦争という時代背景を批判的に分析しながら、詩のテキストの中に忘れてはならない教訓を読み取り、自分のことばで表現する語学力と思考力の獲得である。							
到達目標(学修成果)	1. 英語文化圏を代表する詩人の作品を分析、批判、評価することができる 2. 作品が描く歴史的・社会的問題や課題を理解することができる 3. 作品で扱われている諸問題を人文科学、社会科学の視点から考えることができる 4. 問題意識をもって詩を読む習慣ができる 5. 議論をまとめる能力を身につけることができる							
評価方法	1. 小論文、作品の背景を理解した上で、作品を分析、批判、評価できているか、計40% 2. 発表と定期試験、何が問題か理解できているか、問題を分析し、根拠を挙げ、自分の文章で論述しているか、発表10%、定期試験30% 3. ショトルカード、問題意識をもって映画を見る習慣ができているか、計20%							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業紹介 Poetry in <i>In Her Shoes</i> (2005 movie)	講義、DVD視聴	課題DVD資料の準備
2	Poetry poems: Pablo Neruda, Marianne Moore, William Carlos Williams, Seamus Heaney, etc.	講義、DVD視聴、質疑応答、	課題DVD資料の準備
3	Poetry poems: John Donne, Andrew Marvell, Robert Herrick, John Keats, Wallace Stevens	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
4	Long poems vs short poems: Imagist poems, etc.	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
5	Ezra Pound: poems from <i>Cathay</i> , etc.	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
6	Poems in sequence: Charles Baudelaire, Emily Dickinson, W. B. Yeats, Pound, etc.	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
7	T. S. Eliot: "The Love Song of J. Alfred Prufrock"; Pound: "Hugh Selwyn Mauberley"	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
8	Eliot: <i>The Waste Land</i>	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	Dantesque poems: Geoffrey Chaucer, Percy Bysshe Shelley, George Gordon Byron, etc.	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
10	Dantesque poems: Robert Browning, Dante Gabriel Rossetti, Yeats, Heaney, etc.	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
11	総括	ディスカッション	小論文 no. 1 の準備（提出は次回授業時）
12	ダンテ講義①『神曲』全体の枠組 <i>Inferno</i> 1-2, <i>Paradiso</i> 31-33	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
13	ダンテ講義②『地獄編』リンボの異教徒アリストテレス <i>Inferno</i> 4-5, 10, 13	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
14	ダンテ講義③『地獄編』裏切りは何を裏切るか <i>Inferno</i> 19, 26, 33	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
15	ダンテ講義④『煉獄編』罪人は救われるか <i>Purgatorio</i> 1, 3, <i>Paradiso</i> 3	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
16	ダンテ講義⑤『煉獄編』わかるよりあわせる <i>Purgatorio</i> 21-30	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
17	ダンテ講義⑥『天国編』哲学のあるべき雛形 <i>Paradiso</i> 10-13	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
18	ダンテ講義⑦『天国編』政治のあるべき雛形 <i>Paradiso</i> 14-20	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
19	ダンテ講義⑧『神曲』聖戦を戦わない皇帝フェデリコ 十字軍をめぐる教皇 vs 皇帝	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
20	ダンテ講義⑨『神曲』三つの比喻 天空、生命、音楽	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
21	ダンテ講義⑩『神曲』総括	ディスカッション	小論文 no. 2 の準備（提出は次回授業時）
22	詩集 <i>Against Forgetting</i> の詩を読む (1) 個人研究の案内（研究倫理等）	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
23	詩集 <i>Against Forgetting</i> の詩を読む (2) Poems from “The Holocaust”	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
24	詩集 <i>Against Forgetting</i> の詩を読む (3) Poems from “World War II”	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
25	詩集 <i>Against Forgetting</i> の詩を読む (4) Poems from “War in Korea and Vietnam”	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習、要約をノート
26	詩集 <i>Against Forgetting</i> の詩を読む (5) Poems from other chapters	ディスカッション	小論文 no. 3 及び期末レポート準備（提出は次回授業時）
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	詩の朗読会 シャトルカードの返却	朗読	期末レポート提出
28	期末レポートの返却と講評	講義、グループ討論	シャトルカードの読み返しと学修内容の振り返り
テキスト	Carolyn Forché (ed.). <i>Against Forgetting: Twentieth-Century Poetry of Witness</i> (W. W. Norton). 詩のテキスト及び資料を随時配布する		
参考書	Dante Alighieri. <i>Divine Comedy</i> (Chartwell Books).		

科目名	LIT322: 映画と文学			担当教員	飯田 純也	
開講期	春	開講時限	火金2限	研究室	4号館2階 講師控室	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-⑤
キーワード	歴史、教訓、社会、戦争、反戦、虐殺、差別、SF、ユートピア、プロパガンダ、ゲーム					
授業の概要	映画と文学を物語として捉え、映画作品において、われわれの世界がどのように物語られているのか探求する。名作とされるものを多く取り上げ、作品の内容を理解する語学力、作品が取り上げる問題を分析、批判、議論する思考力を身につける。					
達成目標(授業の目的)	授業では毎回、映画作品を取り上げ、物語の内容を理解する語学力と、物語が描く「世界」「社会」「人間」を分析的、批判的、論理的に説明する思考力の獲得を目標とする。					
到達目標(学修成果)	1. 映画を物語として分析、批判、評価することができる 2. 映画が描く現代の問題や課題を理解することができる 3. 映画で扱われている諸問題を人文科学、社会科学の視点から考えることができる 4. 問題意識をもって映画を見る習慣ができる 5. 映画を語学教材として活用する習慣ができる					
評価方法	1. 小論文、作品の背景を理解した上で、作品を分析、批判、評価できているか、計40% 2. 発表と定期試験、何が問題か理解できているか、問題を分析し、根拠を上げ、自分の文章で論述しているか、発表10%、定期試験30% 3. シャトルカード、問題意識をもって映画を見る習慣ができているか、計20%					
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction to Film and Literature <i>Hugo</i> (2011)	講義、課題 DVD 視聴 リスト配布	課題リストを基に DVD の入手先を各自検討
2	discussion: <i>Hugo</i> <i>Cinema Paradiso</i> (1988)	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
3	discussion: <i>Cinema Paradiso</i> Chaplin: <i>The Kid</i> , <i>Modern Times</i> , etc.	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
4	discussion: <i>The Kid</i> , <i>Modern Times</i> , etc. Chaplin: <i>The Great Dictator</i> (1940)	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
5	discussion: <i>The Great Dictator</i>	発表、ディスカッション	発表準備、小論文 no. 1 の準備(提出は次回授業時)
6	Drama: <i>What's Eating Gilbert Grape</i> , <i>Rain Man</i> , <i>I Am Sam</i> , etc.	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
7	discussion: <i>WEGG</i> , <i>RM</i> , <i>IAS</i> , etc. Drama: <i>The Theory of Everything</i> (2014)	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
8	discussion: <i>The Theory of Everything</i> Epic: <i>War and Peace</i> , <i>Doctor Zhivago</i>	発表、ディスカッション	課題 DVD を視聴、ノートの作成、発表準備
9	discussion: <i>WAP</i> , <i>DZ</i> Epic: <i>Dances with Wolves</i> , <i>Legends of the Fall</i>	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	discussion: <i>DWW</i> , <i>LOTF</i> Epic: <i>Les Misérables</i> (2012)	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの 作成（筋、人物、意見）
11	discussion: <i>Les Misérables</i>	発表、ディスカッショ ン	発表準備、小論文 no. 2 の準 備（提出は次回授業時）
12	SF: <i>Metropolis</i> , <i>2001: A Space Odyssey</i> , <i>The Time Machine</i> , <i>The War of the Worlds</i> , <i>Avatar</i>	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの 作成（筋、人物、意見）
13	discussion: SF films	発表、ディスカッショ ン	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
14	Dystopia: <i>The Hunger Games</i> trilogy (2012, 2013, 2014, 2015)	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの 作成（筋、人物、意見）
15	discussion: <i>The Hunger Games</i> trilogy	発表、ディスカッショ ン	発表準備、小論文 no. 3 の準 備（提出は次回授業時）
16	War: <i>The Cold Mountain</i> , <i>The Red Baron</i> , <i>A Bridge Too Far</i> , <i>Nuremberg</i> , <i>Joyeux Noël</i>	発表、ディスカッショ ン	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
17	War: <i>Thirteen Days</i> (2000) discussion: <i>Thirteen Days</i>	発表、ディスカッショ ン	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
18	Propaganda: Eisenstein, Griffith, Riefenstahl <i>Welcome to Sarajevo</i> (1998)	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの 作成（筋、人物、意見）
19	discussion: Propaganda, <i>Welcome to Sarajevo</i> Introduction to independent research	発表、ディスカッショ ン	発表準備、小論文 no. 4 の準 備（提出は次回授業時）
20	Music: <i>The Sound of Music</i> , <i>Amadeus</i> , <i>The Phantom of the Opera</i> , <i>La La Land</i> , etc.	講義、発表、ディスカ ッション	課題 DVD を視聴、ノートの 作成（筋、人物、意見）
21	discussion: Music films	発表、ディスカッショ ン	課題 DVD を視聴、ノートの 作成（筋、人物、意見）
22	Race: <i>The Color Purple</i> (1985), <i>12 Years a Slave</i> (2013)	発表、ディスカッショ ン、講義	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
23	Marriage: <i>Pride and Prejudice</i> (1995), <i>Bridget Jones</i> film series (2001, 2004)	発表、ディスカッショ ン、講義	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
24	Fantasy: <i>Harry Potter</i> , <i>Star Wars</i> , <i>The Lord of the Rings</i> film series	発表、ディスカッショ ン、講義	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
25	Japanese films: Kurosawa ( <i>Seven Samurai</i> , etc.), Ozu ( <i>Tokyo Story</i> , etc.)	発表、ディスカッショ ン、講義	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
26	Japanese films: Miyazaki ( <i>Princess Monono-ke</i> , <i>Ponyo</i> , <i>From Up on Poppy Hill</i> , etc.)	発表、ディスカッショ ン	発表準備、小論文 no. 5 の準 備（提出は定期試験時）
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Romance: <i>Pretty Woman</i> , <i>50 First Dates</i> , <i>P.S. I Love You</i> , <i>The Notebook</i>	発表、講義、シャトル カードの返却	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
28	定期試験の返却と講評	講義、振り返り	シャトルカードの読み返しと 学修内容の振り返り

テキスト	テキストは使用しません。授業ごとに資料を用意して配布します。
参考書	Robert Sklar, <i>A World History of Film</i> (2003); Jill Neldes, <i>Introduction to Film Studies</i> (2011); Edward Bernays, <i>Propaganda</i> (2005); Timothy Corrigan, <i>Film and Literature: An Introduction and Reader</i> (2012)



科目名	ENG350: 翻訳演習			担当教員	永野 良博	
開講期	秋	開講時限	月木5限		研究室	4218
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-⑤
キーワード	文学言語の翻訳、英文和訳、語彙、文法、現代アメリカ小説、アメリカ文化					
授業の概要	現代アメリカ短編小説と翻訳術に関する本を読み、翻訳の技術を高めてゆく。毎回の授業で、学生が作る訳文の発表があり、それを基に意見交換し、共同で訳文を作成する。小説が提示する文学的テーマの理解も深める。主題は家族に関わり、女性の独立と結婚、引き籠りの息子と家族、父の死と家族の再生、離婚と親子関係、貧困と家族の支援等である。翻訳術については、文法的な観点から翻訳上の工夫の仕方を身に付ける。					
達成目標(授業の目的)	現代アメリカ短編小説の文学言語を日本語訳出来るようにする。複数の文学作品に触れ、比喩的かつ重層的な意味を持つ言語と複雑な構造を理解し、背後にある思想を的確に読み取りながら、文章を翻訳する技術を修得する。また様々な文法事項ごとに特有な翻訳術を理解し、それを基とした翻訳技術を修得する。					
到達目標(学修成果)	学期前半では単語、文法、構造理解等のレベルから学習し始めて英文和訳の基礎を修得する。その作業を継続しながら、文学言語の特徴を理解した上で、日本語らしい文章で翻訳出来るようになる。また訳文の発表と質疑応答を通し、文法、構造、総合的な文章理解、翻訳に関わる適切な説明をし、他人の意見を反映した上で訳文を改善出来るようになる。文法事項ごとに必要な翻訳上の工夫を意識し訳文を作成する力を修得する。					
評価方法	授業参加(20%)、発表及び質疑応答(60%)、課題(20%)					
評価基準	授業参加については、個々の学生が事前に辞書を引き文章を読んだ上で、授業中に語彙、文法、構造の理解を示し、自分の訳文を口頭で述べる事が出来る。また他の学生の発表に関する建設的な意見を述べる事が出来る。発表では正確かつ意味が明確で日本語らしい訳文を作成し、それに関する的確な語彙、文法、構造等の注を加えて原稿を作り、発表することが出来る。質疑応答では、正確な英語理解に基づいた受け答えが出来る事が重要。課題では、正確で意味の明確な訳文の作成、及び語彙、文法、構造等の正確な説明が求められる。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業紹介、Kate Chopin, "Regret." 導入。翻訳術語順と原文の思考導入。	講義と意見交換	"Regret" pp.11-12. 『英文翻訳術』 pp.15-24.
2	Chopin, "Regret." 語順と原文の思考まとめ。	講義と意見交換	"Regret" pp.13-14. 『英文翻訳術』 pp.15-24.
3	Chopin, "Regret." 所有格。	講義と意見交換	"Regret" pp.15-16. 『英文翻訳術』 pp.25-36.
4	Chopin, "Regret." まとめ。所有格まとめ。	発表と意見交換	"Regret" pp.11-16. 『英文翻訳術』 pp.25-36.
5	Bernard Malamud, "My Son the Murderer." 導入。核文と変形導入。	発表と意見交換	"My Son" pp.17-18. 『英文翻訳術』 pp.37-45.
6	Malamud, "My Son the Murderer." 核文と変形まとめ。	発表と意見交換	"My Son" pp.19-20. 『英文翻訳術』 pp.37-45.
7	Malamud, "My Son the Murderer." 無生物主語導入。	発表と意見交換	"My Son" pp.21-22. 『英文翻訳術』 pp.46-57.

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Malamud, “My Son the Murderer.” 無生物主語まとめ.	発表と意見交換	“My Son” pp.23-24. 『英文翻訳術』 pp.46-57.
9	Malamud, “My Son the Murderer.” 代名詞導入. 翻訳術まとめ.	発表と意見交換	“My Son” p.25. 英文翻訳術』 pp.15-57, pp.67-77.
10	E.L. Doctorow, “The Writer in the Family.” 導入. 代名詞まとめ.	発表と意見交換	“The Writer” pp.26-27. 『英文翻訳術』 pp.67-77.
11	Doctorow, “The Writer in the Family.” 関係代名詞・接続詞導入.	発表と意見交換	“The Writer” pp.28-29. 『英文翻訳術』 pp.88-98.
12	Doctorow, “The Writer in the Family.” 関係代名詞・接続詞まとめ.	発表と意見交換	“The Writer” pp.30-31. 『英文翻訳術』 pp.88-98.
13	Doctorow, “The Writer in the Family.” 関係代名詞・分解導入.	発表と意見交換	“The Writer” pp.32-33. 『英文翻訳術』 pp.99-109.
14	Doctorow, “The Writer in the Family.” 関係代名詞・分解まとめ.	発表と意見交換	“The Writer” p.34-35. 『英文翻訳術』 pp.99-109.
15	Doctorow, “The Writer in the Family.” 形容詞・副詞術語の訳導入.	発表と意見交換	“The Writer” pp.36-37. 『英文翻訳術』 pp.120-130.
16	Doctorow, “The Writer in the Family.” 形容詞・副詞術語の訳まとめ.	発表と意見交換	“The Writer” pp.38-39. 『英文翻訳術』 pp.120-130.
17	Doctorow, “The Writer in the Family.” 副詞に訳す形容詞導入.	発表と意見交換	“The Writer” pp.40-41. 『英文翻訳術』 pp.131-142.
18	Doctorow, “The Writer in the Family.” 副詞に訳す形容詞まとめ.	発表と意見交換	“The Writer” pp.42-43. 『英文翻訳術』 pp.131-142.
19	Updike, “Still of Some Use.” 導入. 比較表現導入.	発表と意見交換	“Still” pp.44-45. 『英文翻訳術』 pp.143-154.
20	Updike, “Still of Some Use.” 比較表現まとめ.	発表と意見交換	“Still” pp.46-47. 『英文翻訳術』 pp.143-154.
21	Updike, “Still of Some Use.” 時制導入.	発表と意見交換	“Still” pp.48-49. 『英文翻訳術』 pp.155-164.
22	Updike, “Still of Some Use.” 翻訳術まとめ.	発表と意見交換	“Still” p.50. 『英文翻訳術』 pp.67-109.
23	Carver, “Elephant.” 導入. 時制まとめ.	発表と意見交換	“Elephant” pp.51-52. 『英文翻訳術』 pp.155-164.
24	Carver, “Elephant.” 受動態導入.	発表と意見交換	“Elephant” pp.53-54. 『英文翻訳術』 pp.168-178.
25	Carver, “Elephant.” 受動態まとめ.	発表と意見交換	“Elephant” pp.55-56. 『英文翻訳術』 pp.168-178.
26	Carver, “Elephant.” 受動態（続）.	発表と意見交換	“Elephant” pp.57-58. 『英文翻訳術』 pp.179-191.
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Carver, “Elephant.” 翻訳術まとめ.	発表と意見交換	“Elephant” pp.59-60. 『英文翻訳術』 pp.120-191.
28	Carver, “Elephant.” 翻訳術まとめ.	発表と意見交換	“Elephant” pp.61-62. 『英文翻訳術』 pp.120-191.

テキスト	井上健 他編『American Families』（三修社） 安西徹雄『英文翻訳術』（筑摩書房）
------	---

科目名	LNG310: 社会言語学				担当教員	神谷 雅仁		
開講期	春	開講時限	月木5限		研究室	4215		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	言語コミュニティ、地域方言、社会方言、多言語主義、Style shift、Politeness、言語と文化							
授業の概要	本講は言語学の中でも社会言語学と呼ばれる分野の入門編という位置付けのもと、言語をそれが使われる社会との関係から考察していく。各単元の学修内容は言語選択やポライトネス理論、社会方言など社会言語学の中でも中核を成す内容を中心に構成される。授業はテキストの内容をまとめたレジュメ、および関連する内容についての様々な資料を中心に講義形式で進められ、理解定着のため必ず単元ごとに既習内容のreviewを行う。							
達成目標(授業の目的)	本講で対象となる言語社会は多くの学生にとっての母語である日本語社会、および様々な英語圏の国・地域で使用される英語のコミュニティが中心となるが、ヨーロッパやアジアなど、その他の地域に関する言語状況などについても概観する。そのため、学生は人が社会の中でどのように言葉を選択し、それを使用しているかについて幅広い、グローバルな視点に立って考えることができるようになる。							
到達目標(学修成果)	上記の達成目標のもと、学生は言語使用や言語バリエーションに関する様々な概念や理論に触れ、日本語や英語、また他の言語が各言語コミュニティの中でどのような状況に置かれているのかについて、客観的に認識できるようになる。同時に自らの言語生活を振り返ることで、いつどこでどのような言葉を使っているか、そして自らの母語(および第二言語)がどのように自らのアイデンティティ形成に関与しているかについて考察することができるようになる。							
評価方法	▶中間試験(30%)、▶期末試験(40%)、▶Research Assignment(20%)、▶授業参加度(10%)							
評価基準	▶中間試験、および期末試験(客観式): 試験までの学修内容について、用語、概念、理論的枠組みなどが言語例とともに理解され、定着しているかが問われる。特に記述形式の問題については、用語/概念の定義に始まり、言語例を用いた説明がしっかりなされているか、そして指示に従ったかたちで過不足なく論じられているかが問われる。 ▶Research assignment: 学期を通して学ぶいくつかのテーマには、それをさらに学生が自ら調べ、まとめるという課題が課せられる。これらの課題は期限内に提出されたかどうかに加え、①指示通りに調べたことがまとめられているか、②それを自分自身の言語観や日々の言語生活、また経験に照らし合わせ、より深く議論できているかによって評価される。 ▶授業参加度: 授業内での講義を聞く態度、グループ活動への積極参加、発言回数と妥当性。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview & What is language? 本講の概観&言語とは何か	講義、グループワーク、ディスカッション	テキストのまえがきを読む 言葉について考える
2	What is Linguistics? 言語学という分野を概観する	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.1)、レジュメの予習・復習
3	What is Sociolinguistics? 社会言語学という分野を概観する	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.1)、レジュメの予習・復習
4	Multilingualism 多言語社会	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.2)、レジュメの予習・復習
5	Diglossia & Domain 2言語併存の状況	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.2)、レジュメの予習・復習
6	Code-switching: Why do we code-switch? なぜコードスイッチするのか	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.2)、レジュメの予習・復習
7	Code-switching: How do we code-switch? どのようにコードスイッチするのか	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.2)、レジュメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Language death: “Ainu Rebels” 言語の死：“Ainu Rebels”	講義、ディスカッション、DVD視聴	テキストを読む（ch.2）、レジュメの予習・復習
9	Language death 言語の死：絶滅危惧言語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.2）、レジュメの予習・復習
10	Pidgin and Creole ピジン語とクレオール語：その背景と特徴	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.2）、レジュメの予習・復習
11	Pidgin and Creole ピジン語とクレオール語：広がりと言語的発達 前半のまとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	レジュメの予習・復習、前半の振り返り
12	Mid-term Test 中間試験 Regional variations: Dialects in America	講義、ディスカッション、質疑応答	前半内容の復習、テキストを読む（ch.3）
13	Test review 試験結果の返却、および解説 Regional variations: Dialect 地域方言	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.3）、レジュメの予習・復習、
14	World Englishes: 国際語としての英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.3）、レジュメの予習・復習
15	Social variations: Studies by Labov 社会方言：Labov の調査研究	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.3）、レジュメの予習・復習
16	Social variations: social class and gender 社会方言：社会階級、性差	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.3）、レジュメの予習・復習
17	Social variations: ethnicity and age / generation 社会方言：人種・民族、年齢・年代	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.3）、レジュメの予習・復習
18	Audience Design オーディエンス・デザイン	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.4）、レジュメの予習・復習
19	Accommodation Theory アコモデーション理論	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.4）、レジュメの予習・復習
20	Politeness: Its background ポライトネス：言語学的、語用論的背景	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.4）、レジュメの予習・復習
21	Politeness: B & L’s politeness ポライトネス：ブラウン&レビンソン	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.4）、レジュメの予習・復習
22	Sexist language use 性差別的言語使用	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.5）、レジュメの予習・復習
23	Cross-cultural Communication: Culture & Context 異文化コミュニケーション：文化	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.5）、レジュメの予習・復習
24	Cross-cultural Communication: Sapir-Whorf Hypothesis サピア＝ウォーフ仮説	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.5）、レジュメの予習・復習
25	Language policy 言語政策	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.5）、レジュメの予習・復習
26	Language plans 言語計画 Review of the second half 後半のまとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.5）、レジュメの復習、テスト準備
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Think about language and identity 言語とアイデンティティーについて考える	講義、ディスカッション、質疑応答	関連する配布物の予習
28	Test review 定期試験の返却、および解説 Course review 全体のまとめ	講義、質疑応答	テスト問題の見直し

テキスト	東照二（著）『社会言語学入門』（研究社）
参考書	飯野公一ほか（著）『新世代の言語学』（くろしお出版） Wardhaugh, R. <i>An Introduction to Sociolinguistics</i> (Blackwell).
その他特記事項	本講の履修には「言語学概論」が履修済みか、同時履修している、あるいは言語系のゼミナールに所属していることが望ましい。どれにも該当しない場合には、担当教員と要相談。

科目名	LNG305: 音声学			担当教員	
開講期	秋	開講時限		研究室	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年
				オフィスアワー	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要			学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。			4-⑤
キーワード	<p style="text-align: center;">シラバスは本学公式 web サイトの シラバスページにて公開します。 詳細については、 Loyola「上智大学短期大学部掲示板」にて お知らせします。</p>				
授業の概要					
達成目標 (授業の目的)					
到達目標 (学修成果)					
評価方法					
評価基準					
準備学修 の時間					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			

テキスト	
参考書	
履修条件、 前提科目	
その他 特記事項	

科目名	LNG330: 日本語学			担当教員	宮崎 幸江	
開講期	秋	開講時限	月4限		研究室	4217
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-⑤
キーワード	日本語の構造、特徴、言語変化、バリエーション					
授業の概要	日本語のしくみについて、音韻、統語、形態、運用面から概説する。日本語の母音や子音の種類と分布の特徴、アクセントの型、動詞の活用、敬語や授受表現などの日本語らしい表現、若者言葉や言語変化について学ぶ。授業では、講義だけではなく毎回ディスカッションの時間を設け、文法の暗記ではなく自分達で日本語の構造を考えていく。					
達成目標(授業の目的)	本科目は、日本語の言語学的な構造を理解するとともに、日本語学習者から見た日本語の構造を理解し、説明する知識を身につけることを目的としている。					
到達目標(学修成果)	高校まで習ってきた学校文法とは異なる文法へのアプローチを身に付け、日本語をひとつの言語として客観的に捉えられるようになる。日本語と英語の構造や言語使用の語用論的な違い、世代差や地域差などを分析し、データや例文を提示しながら記述できるようになる。					
評価方法	① 授業への積極参加 20% ② 中間試験 30% ③ 定期試験 50%					
評価基準	① 授業への参加：授業内のディスカッションや発言を評価する。 ② 中間試験：高校まで習ってきた学校文法とは異なる文法理解を評価する。 ③ 定期試験：日本語をひとつの言語として客観的に捉え、日本語の言語使用をデータや例文を提示しながら記述できるかどうか評価する。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	日本語の音と形 発音の仕組み、特殊拍	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書に目を通し、全体を概観しておく。
2	日本語の音と形 五十音、音素と異音、アクセント、短縮語	講義、ディスカッション、質疑応答	8～20頁を読んで、要点をノートにまとめる。
3	日本語の文法 日本語の品詞、活用	講義、ディスカッション、質疑応答	13～20頁を読んで、要点をノートにまとめる。
4	日本語の文法 格助詞、使役	講義、ディスカッション、質疑応答	27～32頁を読んで、要点をノートにまとめる。
5	日本語の文法 受身	講義、ディスカッション、質疑応答	33～36頁を読んで、要点をノートにまとめる。
6	日本語の文法 テンス、アスペクト	講義、ディスカッション、質疑応答	37～43頁を読んで、要点をノートにまとめる。
7	日本語の文法 モダリティ、条件、名詞修飾	講義、ディスカッション、質疑応答	44～50頁を読んで、要点をノートにまとめる。
8	日本語らしい表現 授受表現	講義、ディスカッション、質疑応答	64～66頁を読む。中間試験の準備。
9	中間試験 日本語らしい表現：とりたて助詞	講義、ディスカッション、質疑応答	58～60頁を読んで、要点をノートにまとめる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	試験の返却及び解説 日本語らしい表現：省略、「は」と「が」	講義、ディスカッション、質疑応答	54～57頁を読んで、要点をノートにまとめる。
11	日本語らしい表現 敬語、中間言語	講義、ディスカッション、質疑応答	67～74頁を読んで、要点をノートにまとめる。
12	日本語の変化と多様性 ら抜きことば	講義、ディスカッション、質疑応答	76～77頁を読んで、要点をノートにまとめる。
13	日本語の変化と多様性 方言、言葉の位相	講義、ディスカッション、質疑応答	81～90頁を読んで、要点をノートにまとめる。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	試験の返却、および講評	講義、ディスカッション、質疑応答	テスト問題の範囲を見直す。
テキスト	庵功雄、日高水穂、前田尚子、山田敏弘、大和シゲミ（2020）『やさしい日本語のしくみ』（くろしお出版）		



科目名	LNG302: 語用論			担当教員	近藤 佐智子	
開講期	春	開講時限	月木4限		研究室	4208
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-⑤
キーワード	言語学、会話、異文化間語用論、発話行為、ポライトネス、含意					
授業の概要	会話における相互理解の仕組みに関する語用論の理論を理解した上で、日本人が英語で「断り」や「依頼」などの発話行為をする場合、どのような誤解が起こりうるのか、異文化間コミュニケーションや英語学習の視点から考察する。授業は、講義と練習問題、質疑応答、ロールプレイ、グループディスカッションによって進める。最後に受講者は各自実際に会話を語用論的視点で分析する研究プロジェクトを行い、レポートにまとめ口頭発表する。					
達成目標(授業の目的)	実際に会話を行う際の相互理解のプロセスについて理解を深めることを目標とする。語用論の理論について学んだ上で、実際に会話を分析することによって、言語に関する理解を深めると同時に分析結果を発表する力をつける。また、異文化間語用論的視点で日本語と英語を比較することによって、英語でのコミュニケーション能力を高める。					
到達目標(学修成果)	会話の仕組みについての語用論の理論を理解し、具体例を挙げて理論を説明できるようになる。文化的価値観が言語使用にどのような影響を与えるかを理解し、日本語と英語を比較する力をつける。相手に失礼にならないような、状況に合った適切な英語を使用する力をつける。映画やドラマの中の会話を語用論的視点で分析し、その結果を書面(レポート)と口頭で表現できるようになる。					
評価方法	小テスト2回(40%) レポート(20%) 発表(20%) 授業時の積極参加(20%)					
評価基準	<p>小テスト2回(40%) 小テスト1(20%) 具体例を挙げて理論を論理的に説明できるか。語用論の用語を理解しているか。</p> <p>小テスト2(20%) 例を挙げて会話分析、異文化間語用論の用語を論理的に説明できるか。英語での発話行為を適切に行うことができるか。</p> <p>レポート(20%) 理論の紹介が適切に行われているか。語用論的視点から会話を分析できているか。論理的に分かりやすく書かれているか。書式が守られているか。</p> <p>発表(20%) 発表の内容(理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたか、的確に要点を捉えているか)、発表の態度(声の大きさ、話し方などが効果的か)。</p> <p>授業時の積極参加(20%) 課題を積極的にこなしたか。グループディスカッションやロールプレイに積極的に参加したか。Participation Worksheet 5回の提出とその内容の質。</p>					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	導入：授業の概要と評価方法 What is Pragmatics? (語用論とは何か)	講義、ディスカッション	テキスト15-22頁を読む
2	What is Pragmatics? (語用論とは何か)：状況の中での発話の意味	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト15-22頁を読む
3	Greeting (挨拶)	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト1-8頁を読む
4	Communicative Competence (言語運用能力)	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト9-15頁を読む
5	Speech Acts (発話行為)：理論と分類	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト23-30頁を読む
6	Speech Acts (発話行為)：間接発話行為	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト47-54頁を読む
7	Conversational Implicature (会話による含意)：協調の原則	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト39-46頁を読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Conversational Implicature（会話による含意）：会話の分析	講義、ビデオ視聴 ディスカッション	テキスト 39-46 頁を読む
9	Politeness（ポライトネス）：Brown & Levinson の理論	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト 55-63 頁を読む
10	Politeness（ポライトネス）：Leech の理論	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト 64-71 頁を読む
11	日本語と英語のポライトネス	講義、質疑応答、ディスカッション	資料「日英のポライトネス」を読む
12	小テスト 1（40 分） 復習（60 分）	小テスト、講義	小テストのための復習
13	会話分析：隣接応答ペア	講義、質疑応答、ディスカッション	資料「会話分析：隣接応答ペア」を読む
14	会話分析：修復 小テスト 1 の返却、および講評	講義、質疑応答、ディスカッション	資料「会話分析：修復」を読む
15	会話分析：優先構造	講義、質疑応答、ディスカッション	資料「会話分析：優先構造」を読む
16	語用論的視点からの会話の分析（レポートと発表について）	ビデオ視聴、講義、ディスカッション	談話完成タスク 発表の題材を考える
17	Cross-cultural Pragmatics（異文化間語用論）	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト 80-86 頁読む
18	日英比較：Apologies（謝罪） ワークシート①	ロールプレイ、ディスカッション、講義	資料「Apologies」を読む テキスト 31-38 頁を読む
19	日英比較：Requests（依頼） ワークシート②	ロールプレイ、ディスカッション、講義	資料「Requests」を読む テキスト 72-79 頁を読む
20	日英比較：Compliments and Responses to Compliments（誉め）、ワークシート③	ロールプレイ、ディスカッション、講義	資料「Compliments」を読む
21	日英比較：Refusals（断り） ワークシート④	ロールプレイ、ディスカッション、講義	資料「Refusals」を読む
22	日英比較：Complaints（不満表明） ワークシート⑤	ロールプレイ、ディスカッション、講義	資料「Complaints」を読む レポート作成
23	小テスト 2（40 分） 復習（60 分）	小テスト、講義	小テストのための復習
24	語用論的視点からの会話の分析（発表）	学生の発表 ディスカッション	発表の準備 レポート作成
25	語用論的視点からの会話の分析（発表）	学生の発表 ディスカッション	発表の準備 レポート作成
26	語用論的視点からの会話の分析（発表）	学生の発表 ディスカッション	発表の準備 レポート作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	語用論的視点からの会話の分析（発表）	学生の発表 ディスカッション	発表の準備 レポート作成
28	小テスト 2 の返却、および講評 レポート提出、復習と総括	講義、ディスカッション	レポート提出

テキスト	田中典子『プラグマティクス・ワークショップー身のまわりの言葉を語用論的に見る』（春風社） Sachiko Kondo. <i>Cross-cultural Pragmatics: Speech Acts.</i> （オリジナル資料）
参考書	岡本真一郎（編）『ことばのコミュニケーション』（ナカニシヤ出版） ヘレン・スペンサー＝オーティアー（編著）『異文化理解の語用論』（研究社）
その他特記事項	テキストと資料は日本語と英語で書かれているので、日本語と英語での予習復習が必要である。

科目名	ENG360: 英語史			担当教員	山本 浩	
開講期	秋	開講時限	月木4限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-⑤
キーワード	英語の史的理解、標準英語と多様な英語、英語と階級・文学・宗教・政治・メディア					
授業の概要	現代の国際語としての英語の考察から始め、同時に地球の様々な地域で発達する英語について視野を広げてゆく。その後、英語の歴史的変化の問題を扱ってゆく。中心的な問題は、古英語、キリスト教文献、ノルマン語の流入と中英語への変化、中英語の詩及び劇、印刷技術の発達、近代英語の発達とシェイクスピアの英語、近現代の英語、英語と階級、アメリカ英語を扱う。					
達成目標(授業の目的)	古英語、中英語、近代英語、現代英語の特徴を理解し、語彙、文法、発音等の身近な問題について歴史的観点から理解することを主な目的とする。英語史に必要な用語・概念を英語で理解し、英語による文献読解力を身につける。そして英語の発達を、英国史、世界史、英文学史へと繋げる視点と知識を得る。					
到達目標(学修成果)	英語という言葉内の個々の単語、文法、表現を、それらの背後にある歴史的事象等と密接に結びつけ、言語を重層的に理解出来るようになる。英語史発展と関連が深い英国史、世界史、英文学史上の事象についても基本的知識を持つことができる。英語文献の正確な理解を、語彙、文法、文章構造の理解等と共に行えるようにする。					
評価方法	授業参加：20% テストおよび定期試験：80%					
評価基準	授業参加：授業での質問に答えたか、積極的に質問や意見を述べたかを見る(リアクション・ペーパーの記述も含む)。 テストおよび定期試験：古英語、中英語、近代英語のそれぞれの特徴と、英語の変遷に関する知識を得ているか、また、英国史、世界史、英文学史と英語の歴史との関係についての知識を得ているかを見る。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	英語の現在	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
2	ケルト人、ローマ人、ゲルマン人	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
3	比較言語学とインド・ヨーロッパ語族	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
4	インド・ヨーロッパ語族の諸言語—インド・イラン語派、ギリシア語など	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
5	インド・ヨーロッパ語族の諸言語—イタリアック語派、ケルト語派、ゲルマン語派など	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
6	ゲルマン人と古英語	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
7	古英語の特徴	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
8	古英語の文学	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	テスト①（45分）と1回～8回の授業の復習（45分）	テストとテストに基づく復習	テストの準備学習をする
10	テスト①のふりかえり	テストの返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
11	ノルマン征服と中英語	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
12	中英語の特徴	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
13	中英語の時代	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
14	中英語の文学	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
15	大母音推移と印刷術の発達	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
16	テスト②（45分）と11回～16回の授業の復習（45分）	テストとテストに基づく復習	テストの準備学習をする
17	テスト②のふりかえり	テストの返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
18	ヨーロッパとイングランドのルネサンス	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
19	チューダー朝と宗教改革	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
20	聖書の英語訳	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
21	近代英語の始まりとシェイクスピア	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
22	英語の規範化	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
23	イギリスの階級	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
24	英語と階級、Queen's English, BBC English, RP	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
25	英語の方言	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
26	イギリス英語とアメリカ英語	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	18回～26回の授業の復習と定期試験のふりかえり	定期試験に基づく復習、定期試験の返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
28	英語史の総まとめ	パワーポイントを使用した講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する

テキスト	特定の教科書は使用しない。受講する学生は事前に配布されるパワーポイント資料を事前にプリントして予習し、授業の時に持参すること。
参考書	寺澤盾『英語の歴史―過去から未来への物語』中公新書1971（中央公論新社） 中尾俊夫・寺島廸子『図説 英語史入門』（大修館書店）

科目名	LNG320: バイリンガル教育			担当教員	宮崎 幸江	
開講期	春/秋	開講時限	木4限		研究室	4217
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-①
キーワード	バイリンガル、母語、継承語、アイデンティティ					
授業の概要	バイリンガルの言語習得や文化習得に関する応用言語学の理論とバイリンガル教育の方法、日本と海外のマルチリンガル教育の現状について学ぶ。カナダやアメリカなどの言語政策の背景にある歴史や政治的な出来事についても理解し、バイリンガリズムを多文化共生的な視点で考えていく。					
達成目標(授業の目的)	本科目は、バイリンガルの言語発達や言語教育の方法を理解し、日本人が海外で育った場合の日本語保持や、日本国内に住む外国人の子どもたちの教育課題についてもバイリンガル教育の観点から理解できるようになる。					
到達目標(学修成果)	① バイリンガルとモノリンガルの言語発達の違いや特徴、教育方法を学ぶことにより、多様性を持つ人々の問題を理解できるようになる。 ② バイリンガリズムに関するテーマに関して、専門的な知見を理解し、用語を用いて分析し記述できるようになる。					
評価方法	① 授業のディスカッションへの積極参加：15% ② 中間テスト・宿題：40% ③ 定期試験：45%					
評価基準	① 授業への積極参加：発言やディスカッションへの貢献を評価する。 ② 中間テスト・宿題：理論や専門用語など授業内容の基礎的な理解を評価する。 ③ 定期試験：バイリンガルとモノリンガルの言語発達の違いや特徴、教育方法を理解し、バイリンガリズムに関する現象や政策、問題等についても専門的な知見を用いて分析し記述できるか評価する。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	第1章 バイリンガルとは 母語と第2言語の違いについて	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書第1章を読む、ノートまとめる。
2	第1章 バイリンガルとは グローバル化と人の移動	講義、ディスカッション、質疑応答	1章を読んでノートにまとめる。
3	第2章 子どもの母語の発達と年齢 保護者の役割 試験の返却及び解説	講義、ディスカッション、質疑応答	2章を読んでノートにまとめる。
4	第3章 バイリンガル教育の理論 2言語共有説と言語能力の捉え方	講義、ディスカッション、質疑応答	2章を読んでノートにまとめる。
5	第3章 バイリンガル教育の理論 社会心理的要因と言語の発達	講義、ディスカッション、質疑応答	3章を読んでノートにまとめる。
6	第4章 家庭で育てるバイリンガル 母語の役割と言語の使い分け	講義、ディスカッション、質疑応答	4章を読んでノートにまとめる。
7	第5章 イマージョン方式のバイリンガル 教育 イマージョン教育の歴史・方法	講義、ディスカッション、質疑応答	5章を読んでノートにまとめる。
8	中間テスト 第6章 年少者英語教育とバイリンガル	講義、ディスカッション、質疑応答	1章から5章を読んでノートにまとめる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	第7章 マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育 北米の教育制度	講義、ディスカッション、質疑応答	6章と7章を読んでノートにまとめる。
10	第7章 マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育 日本の教育制度	講義、ディスカッション、質疑応答	7章を読んでノートにまとめる。
11	第8章 海外子女とバイリンガル教育 現地校と補修校の役割	講義、ディスカッション、質疑応答	8章を読んでノートにまとめる。
12	第9章 日系人子女とバイリンガル教育 継承語としての日本語教育	講義、ディスカッション、質疑応答	9章を読んでノートにまとめる。
13	第10章 バイリンガルと文化の習得 言語とアイデンティティ	講義、ディスカッション、質疑応答	10章を読んでノートにまとめる。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	試験の返却及び解説 第12章 バイリンガル教育の日本の言語教育への貢献	講義、ディスカッション、質疑応答	12章を読んでノートにまとめる。

テキスト	中島和子（2016）『完全改訂版 バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること』
------	--

科目名	EDU310: 初等教育				担当教員	杉村 美佳		
開講期	秋	開講時限	火金3限		研究室	4220		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	小学校教育、発達教育学、初等教育史、教育課程、教育方法、指導案の作成、模擬授業							
授業の概要	前半では、児童期の発達の段階と筋道を、主に発達教育学の視点から学ぶ。後半では、教育課程論、教育方法論、初等教育の歴史と現状、課題について探求する。授業実践について理解を深めるため、小学校の授業を見学し、その上で指導案の作成と模擬授業を行う。							
達成目標(授業の目的)	児童期の発達や初等教育の基礎理論および課題を理解し、授業実践に必要な知識や技術の基礎を習得する。児童の発達や興味・関心に即した指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して、実践的な指導力の基礎を身につける。							
到達目標(学修成果)	①初等教育の現状と課題を学び、教師論や教育課程論等を理解することを通して、初等教育の理論や実践に関する基礎知識を身につける。 ②『教育の段階』のブックレポート作成を通して、児童期の発達の筋道を理解し、発達段階に即した教育のあり方を考察できるようになる。 ③各自が学習者を主体とした「総合的な学習の時間」の指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に授業評価をし合うことによって、効果的に児童への指導が行える力を養う。							
評価方法	①授業時に課すリアクション・ペーパー(30%)、②『教育の段階』のブックレポート(30%)、③小学校見学のレポート(10%)、④指導案の作成・発表(30%)							
評価基準	①リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に論述できているか。 ②『教育の段階』のブックレポート：テキストの内容を理解し、発達の筋道に即した教育のあり方について、講義内容もふまえて考察できているか。 ③小学校見学のレポート：教師と児童の様子、授業のねらいや工夫を捉えているか。 ④指導案の作成・発表：ねらいが明確で一貫性があり、学習者の発達や興味に即した指導案であるか、指導案を効果的に実践する工夫がなされているか、を評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	小学生をめぐる今日的課題	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付資料の要約・考察
2	小学生の時代的变化	講義・ディスカッション リアクションペーパー	小学生の問題について調べる、配付資料の要約・考察
3	児童期の発達の諸側面と教育(1) —認知的発達—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	ピアジェの理論について調べる、配付資料の考察
4	児童期の発達の諸側面と教育(2) —社会的・人格的発達—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	社会性の発達について調べる、配付資料の要約・考察
5	児童期における道徳性の発達と教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付資料を読む 配付資料の要約・考察
6	児童期における問題行動の意味(1) —非社会的問題行動—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	問題行動について調べる DVDの内容の要約・考察
7	児童期における問題行動の意味(2) —反社会的問題行動—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	問題行動について調べる DVDの内容の要約・考察

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	『教育の段階』のレポート発表（1）	口頭発表・討議・解説	『教育の段階』1のレポート 『教育の段階』の復習
9	『教育の段階』のレポート発表（2）	口頭発表・討議・解説	『教育の段階』2のレポート 『教育の段階』の復習
10	『教育の段階』のレポート発表（3）	口頭発表・討議・解説	『教育の段階』3のレポート 『教育の段階』の復習
11	『教育の段階』のレポート発表（4）	口頭発表・討議・解説	『教育の段階』4のレポート 『教育の段階』の復習
12	特別支援教育の現状と課題	講義・ディスカッション リアクションペーパー	特別支援教育について調べる、 配付資料の要約・考察
13	初等教育の内容と教育課程	講義・ディスカッション リアクションペーパー	コア・カリキュラムを調べる、 配付資料の要約・考察
14	「総合的な学習の時間」の原理と方法	講義・ディスカッション リアクションペーパー	総合学習について調べる 配付資料の要約・考察
15	「総合的な学習の時間」の系譜	講義・ディスカッション リアクションペーパー	デューイについて調べる、 配付資料の要約・考察
16	小学校教師とは	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教師の問題について調べる 配付資料の要約・考察
17	現代における授業改革	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	アクティブ・ラーニングを調べる、 DVDの要約・考察
18	諸外国の初等教育（1）アメリカ	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	アメリカの教育を調べる DVDの内容の要約・考察
19	諸外国の初等教育（2）ヨーロッパ	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	ヨーロッパの教育を調べる DVDの内容の要約・考察
20	小学校見学の準備	グループワーク	配付資料を読む 配付物の作成
21	小学校見学	見学	見学のポイントを作成 見学の振り返り
22	小学校見学のまとめ	グループワーク	見学のレポートを作成
23	指導案とは―指導案の作成方法―	講義、グループワーク	配付資料を読む 指導案の作成
24	指導案の作成（1）―単元・ねらいの設定―	各自指導案の作成	指導案の作成
25	指導案の作成（2）―教材・教具―	各自指導案の作成	指導案の作成
26	指導案の作成（3）―指導方法・評価―	各自指導案の作成	指導案の作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	模擬授業（1）	模擬授業、相互評価 講評	模擬授業の準備と練習
28	模擬授業（2）	模擬授業、相互評価 講評	模擬授業の準備と練習

テキスト	なし。毎回書き込み式講義ノートと新聞記事などの資料を配付する。
参考書	モリス・ドベス著、堀尾輝久他訳『教育の段階―誕生から青年期まで』（岩波書店） 近藤邦夫他編『児童期の課題と支援』（新曜社）
その他 特記事項	秦野市教育委員会からゲストスピーカーを招き、授業実践に関する講義を行う。



科目名	LNG325: 第二言語習得				担当教員	T. Gould	
開講期	秋	開講時限	火金5限		研究室	4209	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	3, 4, 5	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				3-④, 4-⑤, 5-②	
キーワード	Second Language Acquisition, Linguistics, Language Learning						
授業の概要	The overall objective of this course is for students to learn the foundations of Second Language Acquisition. Students will also learn to conduct basic research using both provided data and data they collect themselves. Students will learn to create transcripts from their data and, most importantly, they will learn to analyze their data. Conducting this analysis will enable students to learn to synthesize the contents of the lectures and textbook with real world language use. Projects in this course will help students to learn to understand and improve their own second language learning process.						
達成目標(授業の目的)	In this course, students will learn and use the vocabulary necessary to understand class lectures and discuss SLA topics with other class members. Students will learn to transcribe linguistic data, beginning with a Japanese-Japanese conversation. They will then learn to analyze their own second language production by transcribing and analyzing a sample of a conversation in English with other class members. Finally, for their final project, students will learn to put their knowledge to use by transcribing and analyzing data from an English speaker learning Japanese.						
到達目標(学修成果)	By the end of this course, students should be able to transcribe and analyze second language data from both English and Japanese. Students should also be able to discuss the basic processes of second language acquisition in terms that we have studied during the semester.						
評価方法	Small Project 15%, Mid-Term Project 25%, Final Project 30%, Assessment 30%.						
評価基準	Small Project: display understanding of SLA transcription methods as applied to Japanese conversation; Mid-Term Project: successfully complete full transcription of participant oriented video of English conversation, complete analysis of transcription including reference to text issues from video; Final Project: successfully complete transcription and analysis of video of acquisition of Japanese as second language; Assessment: for each of three tests, correctly answer test questions to display knowledge of covered content.						
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction: How do different languages connect in our minds?	Lecture; pair-work; group-work	Select partner for project 1; handout 1
2	What is a bilingual? What are L2 users like? L2 users think differently; Two Ls in one mind	Lecture; pair-work; group-work	Record 5 min. J. conversation; video 1
3	Is there a best age for learning a second language? The experience of immigrants	Lecture; pair-work; group-work	Prepare 3 min. sample transcript
4	The idea of a 'critical period', The effect of early instruction in a second language	Lecture; pair-work; group-work	Transcript rough draft and analysis points;
5	How do people acquire the words of a second language? The lexical challenge; context	Lecture; pair-work; group-work	Final check project 1 and peer edit;
6	The importance of grammar in SLA; morphemes, word order and processing	Lecture; pair-work; group-work	Project 1 due in class;
7	Writing in a second language; pronunciation, writing system; letter / sound correspondence	Lecture; pair-work; group-work	Select Project 2 groups;

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Review and Test	Short lecture; take test	Meet with Project 2 group and practice conversations
9	Return test and go over results; syllable structure; scripts	Lecture; pair-work; group-work	Meet w / P2 group-practice conversations;
10	Reading and writing processes; spelling rules; punctuation	Short lecture; take test	Record 10 min E. conversation;
11	How do attitude and motivation help in learning a second language? liking and wanting	Lecture; pair-work; group-work	Distribute data file to group members;
12	Motivation; present and future directions; Gardner's def. of L2 motivation	Lecture; pair-work; group-work	Prepare sample 1-minute transcription
13	How useful is L2A research for language teaching?	Lecture; pair-work; group-work	Work on transcribing English data;
14	Teaching and learning; inductive and deductive language teaching; classical teaching	Lecture; pair-work; group-work	Continue transcribing, identify analysis points;
15	Review and Test	Short lecture; take test	mid-term project due in class
16	Return test and go over results; communicative syllabi; Grammar translation method	Lecture; pair-work; group-work	Organize groups for final project;
17	The audiolingual method; examples of structure drills; examples of communicative exercises	Lecture; pair-work; group-work	Distribute data files
18	Weinreich: kinds of bilinguals; more views on age; classic research on the age factor	Lecture; pair-work; group-work	Prepare sample 1-minute transcription;
19	Two views of age and classroom language learning; what's a word?	Lecture; pair-work; group-work	Work on transcribing J. data
20	American English children's early words; translation equivalents; mnemonic connections	Short lecture; take test	Continue transcribing, identify analysis points;
21	Rote-learning; some basic grammar differences between languages (pro-drop and non-pro-drop)	Lecture; pair-work; group-work	Continue work on transcribing J. data;
22	Shapes vs substance; J words taken from E with added vowels	Lecture; pair-work; group-work	Continue transcribing, final analysis points;
23	Review and Test	Short lecture; take test	Study / Review for test; begin English gloss of transcription
24	Return test and go over results; multiple perspectives in SLA	Lecture; pair-work; group-work	Complete English gloss
25	Concluding lecture; Topic review and small group discussions (topic assigned by instructor)	Lecture; pair-work; group-work	Review class notes and test results; finish transcription
26	Peer editing and consultation about Project 3 with instructor, transcription and analysis	pair-work; group-work	Prepare rough outline of analysis for discussion
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Discussions about Project 3 in pairs and small groups	pair-work; group-work	Prepare final draft w / analysis
28	Conclusion, multiple perspectives in SLA	pair-work; group-work	Transcription / analysis project (Japanese learner) due in class
テキスト	Handouts, articles, videos, and other materials will be provided by the instructor.		

科目名	EDU300: 児童英語教育演習 A			担当教員	狩野 晶子	
開講期	春	開講時限	月1・2限		研究室	4203
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-②
キーワード	児童英語教育, 言語習得, 模擬授業, サービスラーニング活動, アクティブラーニング					
授業の概要	児童英語教育・言語習得の基本事項をふまえて、実践へと結びつける科目である。児童英語教育に関する背景知識や第二言語習得理論の知識をもとに、小学校の現場での使用を想定した指導案と映像教材を作成し模擬授業を行う。あわせてサービスラーニング枠で行うイングリッシュフレンド活動に参加し小学生への授業実践と省察を通して理論と実践を体得する。					
達成目標(授業の目的)	児童英語の指導に必要な知識を身につけ、実践に結びつけることがこの授業の目的である。サービスラーニング活動での実践の機会を活用し主に小学校中学年を対象とした英語指導の目的と意義に沿い、児童の認知発達や特性を考慮した指導案と教材、教具等の作成をする。それをを用いてサービスラーニング活動に向けた模擬指導実践を行う。さらに小学校での実践をもとに、自らの指導を検証、評価し改善する経験を積む。					
到達目標(学修成果)	児童英語教育の基礎知識を活かし、主に小学校中学年を対象とした英語指導の目的と意義に沿う指導案と教材、教具等を作成し、小学校での指導に備えて模擬指導実践を行うことができる。グループでの授業準備のプロセスを経験し、小学校での実践を踏まえた相互評価と講評による省察を通して、指導力の育成と自らの指導を検証、評価し改善する課題発見力、課題解決力、協働力が身につく。					
評価方法	①授業でのグループワーク参加姿勢(30%) ②指導案・教材・教具作成(20%) ③模擬授業(20%) ④各回の省察をもとにした期末課題(30%)					
評価基準	①授業内のすべての活動およびグループワーク等への積極的参加、協力しあい主体的に関わる姿勢とそれを反映したリフレクションを評価する。②児童特性を考慮した指導案と教材、教具等の作成への取り組みを評価する。③適切な teacher talk の使用、アクティビティ構成、準備と練習の成果を評価する。④各回の省察の蓄積をもとに、改良改善への取り組みの過程を評価する。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	児童英語教育・小学校外国語(英語)教育とは:これまでの学習内容の確認	講義、指導実践 グループワーク	既習科目の内容復習 Moodle登録・活用方法確認
2	児童英語教育の背景となる言語習得理論・発達理論	講義、指導実践 グループワーク	グループワークをもとに省察、指導に有用な素材集め
3	言語習得理論・発達理論と児童英語教育の指導実践を反映した授業案とは	講義、指導実践 グループワーク	授業内容をもとに指導案作成の準備
4	テキスト概観:学習指導要領に照らして小学校外国語(英語)教育を考える	講義、指導実践 グループワーク	授業内容をもとに指導案・教材・教具作成
5	Communicative Language Teachingの観点からイングリッシュフレンド指導案を考える	講義、指導実践 グループワーク	グループワークをもとに省察、指導案・教材・教具作成
6	小学校中学年への指導案をもとに模擬授業発表①	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案・教材・教具を改訂・発表準備
7	小学校中学年における学習者の特徴を踏まえた指導案・教材教具の在り方	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案・教材・教具を改訂・発表準備
8	小学校中学年への指導案をもとに模擬授業発表②	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案・教材・教具を改訂・発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案（1）の研究	講義、学生発表 グループワーク	相互フィードバックと省察をもとに発表準備と実践練習
10	小学校中学年モデル指導案（1）の実践練習 Classroom English の効果的な使用	講義、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
11	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案（2）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
12	小学校中学年モデル指導案（2）の実践練習 教材・教具の効果的な使用	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
13	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案（3）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
14	小学校中学年モデル指導案のポイント 言語材料の選び方と展開の技法	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
15	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案（4）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
16	小学校中学年モデル指導案（3）（4）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
17	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案（5）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
18	小学校中学年モデル指導案（5）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
19	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案（6）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
20	小学校中学年モデル指導案（6）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
21	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案（7）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
22	小学校中学年モデル指導案（7）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
23	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案（8）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
24	小学校中学年モデル指導案（8）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
25	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案（9）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
26	小学校中学年モデル指導案（9）の実践練習 期末課題について説明	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	期末課題の相互フィードバック	指導実践、学生発表 グループワーク	EF 活動全体の省察 期末課題作成
28	全体での活動の振り返り	指導実践、学生発表 グループワーク	EF 活動の省察を受けて総括 期末課題作成

テキスト	『CROWN Jr. 5年生』、『CROWN Jr. 6年生』（三省堂） 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 平成 29 年告示』		
参考書	小川隆夫・東仁美（著）、吉田研作（監修）『小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のために』（mpi 松香フォニックス）		
履修条件、前提科目	この科目を履修する学生は、イングリッシュフレンド・サービスマーケティング活動への参加を原則とするため、木曜日の午前中は他の授業を履修することはできない。この科目の履修にあたり、「児童英語教育概説」「児童英語指導者養成講座」「第二言語習得」のいずれかの単位を修得済みであることを条件とする。		
その他特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。		

科目名	EDU301: 児童英語教育演習 B				担当教員	狩野 晶子	
開講期	秋	開講時限	月1・2限		研究室	4203	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-②	
キーワード	児童英語教育, 言語習得, 模擬授業, サービスラーニング活動, アクティブラーニング						
授業の概要	児童英語教育・言語習得の基本事項をふまえて、実践へと結びつける科目である。児童英語教育に関する背景知識や第二言語習得理論の知識をもとに、小学校の現場での使用を想定した指導案と映像教材を作成し模擬授業を行う。あわせてサービスラーニング枠で行うイングリッシュフレンド活動に参加し小学生への授業実践と省察を通して理論と実践を体得する。						
達成目標(授業の目的)	児童英語の指導に必要な知識を身につけ、実践に結びつけることがこの授業の目的である。サービスラーニング活動での実践の機会を活用し主に小学校高学年を対象とした英語指導の目的と意義に沿い、児童の認知発達や特性を考慮した指導案と教材、教具等の作成をする。それをを用いてサービスラーニング活動に向けた模擬指導実践を行う。さらに小学校での実践をもとに、自らの指導を検証、評価し改善する経験を積む。						
到達目標(学修成果)	児童英語教育の基礎知識を活かし、主に小学校高学年を対象とした英語指導の目的と意義に沿う指導案と教材、教具等を作成し、小学校での指導に備えて模擬指導実践を行うことができる。グループでの授業準備のプロセスを経験し、小学校での実践を踏まえた相互評価と講評による省察を通して、指導力の育成と自らの指導を検証、評価し改善する課題発見力、課題解決力、協働力が身につく。						
評価方法	①授業でのグループワーク参加姿勢(30%) ②指導案・教材・教具作成(20%) ③模擬授業(20%) ④各回の省察をもとにした期末課題(30%)						
評価基準	①授業内のすべての活動およびグループワーク等への積極的参加、協力しあい主体的に関わる姿勢とそれを反映したリフレクションを評価する。②児童特性を考慮した指導案と教材、教具等の作成への取り組みを評価する。③適切な teacher talk の使用、アクティビティ構成、準備と練習の成果を評価する。④各回の省察の蓄積をもとに、改良改善への取り組みの過程を評価する。						
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	児童英語教育・小学校外国語(英語)教育とは:これまでの学習内容の確認	講義、指導実践 グループワーク	既習科目の内容復習 Moodle登録・活用方法確認
2	児童英語教育の背景となる言語習得理論・発達理論	講義、指導実践 グループワーク	グループワークをもとに省察、指導に有用な素材集め
3	言語習得理論・発達理論と児童英語教育の指導実践を反映した授業案とは	講義、指導実践 グループワーク	授業内容をもとに指導案作成の準備
4	テキスト概観:学習指導要領に照らして小学校外国語(英語)教育を考える	講義、指導実践 グループワーク	授業内容をもとに指導案・教材・教具作成
5	Communicative Language Teachingの観点からイングリッシュフレンド指導案を考える	講義、指導実践 グループワーク	グループワークをもとに省察、指導案・教材・教具作成
6	小学校高学年への指導案をもとに模擬授業発表①	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案・教材・教具を改訂・発表準備
7	小学校高学年における学習者の特徴を踏まえた指導案・教材教具の在り方	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案・教材・教具を改訂・発表準備
8	小学校高学年への指導案をもとに模擬授業発表②	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案・教材・教具を改訂・発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案（1）の研究	講義、学生発表 グループワーク	相互フィードバックと省察をもとに発表準備と実践練習
10	小学校高学年モデル指導案（1）の実践練習 Classroom English の効果的な使用	講義、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
11	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案（2）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
12	小学校高学年モデル指導案（2）の実践練習 教材・教具の効果的な使用	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
13	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案（3）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
14	小学校高学年モデル指導案のポイント 言語材料の選び方と展開の技法	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
15	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案（4）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
16	小学校高学年モデル指導案（3）（4）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
17	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案（5）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
18	小学校高学年モデル指導案（5）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
19	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案（6）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
20	小学校高学年モデル指導案（6）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
21	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案（7）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
22	小学校高学年モデル指導案（7）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
23	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案（8）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
24	小学校高学年モデル指導案（8）の実践練習	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
25	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案（9）の研究	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF 活動の省察
26	小学校高学年モデル指導案（9）の実践練習 期末課題について説明	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	期末課題の相互フィードバック	指導実践、学生発表 グループワーク	EF 活動全体の省察 期末課題作成
28	全体での活動の振り返り	指導実践、学生発表 グループワーク	EF 活動の省察を受けて総括 期末課題作成

テキスト	『CROWN Jr. 5年生』、『CROWN Jr. 6年生』（三省堂） 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 平成 29 年告示』		
参考書	小川隆夫・東仁美（著）、吉田研作（監修）『小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のために』（mpi 松香フォニックス）		
履修条件、前提科目	この科目を履修する学生は、イングリッシュフレンド・サービスマーケティング活動への参加を原則とするため、木曜日の午前中は他の授業を履修することはできない。この科目の履修にあたり、「児童英語教育概説」「児童英語指導者養成講座」「第二言語習得」のいずれかの単位を修得済みであることを条件とする。		
その他特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。		

科目名	EDU206: 児童英語指導者養成講座				担当教員	杉村 美佳		
開講期	秋	開講時限	火金4限		研究室	4220		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-⑤, 5-②	
キーワード	児童英語教育、小学校英語活動、言語習得、英語教授法、レッスンプラン							
授業の概要	小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)認定による「小学校英語指導者資格」の取得を目指し、児童英語指導者として求められる基礎的な知識と実践経験を得る。子どもの言語習得理論、児童心理学、認知発達理論など、指導者として必要な理論の基礎を学び、児童英語指導者に求められる英語力を身につけるためのトレーニングを行う。模擬授業や実践を通して授業スキルやレッスンプランの書き方を体得する。							
達成目標(授業の目的)	児童英語教師として小学校での英語指導や指導補助を行うことを目指し、児童英語に関する基礎知識、教授技術の基本を理解し、英語のみでの指導が行える指導技術と英語力を修得することを目標とする。							
到達目標(学修成果)	①児童英語指導者に必要な英語力の体得に加え、言語習得理論や児童心理、認知発達理論等、児童英語教育の理論の基礎を修得する。②レッスンプランを作成し、アクティビティを実践することを通して、効果的に児童への指導が行えるようになる。③小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)の認定による「小学校英語指導者準認定資格」の取得を目指す。							
評価方法	①課題・ノート提出(20%)、②英文法小テスト(30%)、③アクティビティ発表(20%)、④レッスンプラン作成(30%)							
評価基準	①課題・ノート提出:通信講座の振り返りチェックを行っているか。 ②英文法小テスト:通信講座『英語力トレーニング』確認テストのスコア ③アクティビティ発表:レッスンプランに即して講義で学んだ教授技術を実践に生かすことができたか。 ④レッスンプラン作成:作成手順に即し子どもの発達段階に合った適切なプランになっているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	児童英語教師とは	講義、グループワーク、DVD視聴	『基礎知識1』Week1,2の予習、振り返りチェック
2	子どもと英語—児童英語教育の意義・目的	講義、グループワーク、DVD視聴	『基礎知識1』Week3の予習 振り返りチェック
3	児童心理学(1)—幼児期の心理—	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week4の予習
4	児童心理学(2)—児童期の心理—	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week4の予習 振り返りチェック
5	言語習得論	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week5の予習 振り返りチェック
6	認知発達理論	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week6の予習 振り返りチェック
7	バイリンガル教育	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week7の予習 振り返りチェック
8	国際理解教育	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week8の予習 振り返りチェック

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	小学校英語活動の位置づけ（1）―小学校「外国語活動・外国語」の目標と内容―	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week1の予習
10	小学校英語活動の位置づけ（2）―小学校「外国語活動・外国語」の留意点―	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week1の予習 振り返りチェック
11	小学校英語活動の意義と課題	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week2の予習 振り返りチェック
12	小・中・高の連携	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week3の予習 振り返りチェック
13	求められる英語活動指導者とは	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week4の予習 振り返りチェック
14	クラスルーム・イングリッシュ	講義、グループワーク	『英語力トレーニング2』 Week13～15の予習
15	語彙力のトレーニング	講義、グループワーク	『英語力トレーニング2』 Week16～18の予習
16	パラフレーズ力のトレーニング	講義、グループワーク	『英語力トレーニング2』 Week19～21の予習
17	状況設定力のトレーニング	講義、グループワーク	『英語力トレーニング2』 Week22～24の予習
18	カリキュラムとレッスンプラン	講義、グループワーク	『基礎知識3』Week6の予習
19	教材・教具	講義、グループワーク	『基礎知識3』Week7の予習 振り返りチェック
20	レッスンを構成するアクティビティ（1） ―レッスンに適したアクティビティ―	講義、グループワーク	『基礎知識3』Week8の予習
21	レッスンを構成するアクティビティ（2） ―代表的なアクティビティ例―	講義、グループワーク	『基礎知識3』Week8の予習 振り返りチェック
22	レッスンプランの書き方	レッスンプランの作成	『レッスンプラン作成ガイド』 Week9の予習
23	レッスンプランの作成（1） ―はじめの挨拶とウォーミングアップ―	レッスンプランの作成	レッスンプランの作成
24	レッスンプランの作成（2） ―テーマに関する単語や表現の導入―	レッスンプランの作成	レッスンプランの作成
25	レッスンプランの作成（3） ―繰り返し慣れ親しむための活動―	レッスンプランの作成	レッスンプランの作成
26	アクティビティ発表（1）	学生発表、相互評価、 講評	発表の準備と練習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	アクティビティ発表（2）	学生発表、相互評価、 講評	発表の準備と練習
28	アクティビティ発表（3）	学生発表、相互評価、 講評	発表の準備と練習

テキスト	「アルク児童英語教師養成コース」（アルク）で使用するテキスト（『基礎知識編』『英語力トレーニング編』『レッスンプラン編』）およびその他のプリント配付物。		
参考書	文部科学省 “We can!”（東京書籍）		
履修条件、 前提科目	本講はアルクの通信講座「アルク児童英語教師養成コース」をベースとする授業のため、別途費用がかかる。		
その他 特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。		



科目名	SLE201: サービスラーニング入門講座				担当教員	宮崎 幸江		
開講期	春/秋	開講時限	(春) 木2限 (秋) 火4限		研究室	4217		
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-⑤, 5-①, 5-②	
キーワード	サービスラーニング、キリスト教ヒューマニズム、秦野市、多文化共生							
授業の概要	本学のサービスラーニング活動に参加を希望している学生に、サービスラーニングとは何か、秦野市の地域的な課題や公教育で求められるボランティアの役割、子どもたちの発達等、毎回異なる講師により多様な視点からサービスラーニングについて講義を聴く。講義を聴いて、グループディスカッションや発表をする参加型の授業を行う。							
達成目標(授業の目的)	本学のサービスラーニング活動に参加することを前提に、活動する地域社会に対する基礎知識や教育現場でのニーズについて学ぶ。また、本学教職員のボランティア体験を聴くことにより、国内だけでなく海外まで視野を広げ、多文化共生的な視野を養う。							
到達目標(学修成果)	サービスラーニングの内容や特徴を理解し、具体的にどのサービスラーニングに参加していきたいかイメージを持てるようになる。その活動に参加することによりどのような地域貢献をしていきたいか、また自分自身が何をどう学ぶかを主体的に考えられるようになる。多様な背景の講師の講義から、「他者のために他者ととともに」とはどういうことかを自分で考え、意見を述べられるようになる。							
評価方法	① ディスカッション、プレゼンへの積極的参加：25% ② リアクションペーパー：25% ③ 最終レポート：50%							
評価基準	① 積極的参加：授業中のディスカッションへの参加と最終回のプレゼンに積極的に関わったかどうかを評価する。 ② リアクションペーパー：毎回の講義を振り返りシャトルカードに書いて提出する。 ③ 最終レポート：「サービスラーニング入門講座から学んだこと」というタイトルのレポートを最終日に提出する。 ※成績評価はパス/フェイルのみ							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	サービスラーニングとは何か：サービスラーニングの歴史、目的、種類	講義、ディスカッション、質疑応答、リアクションペーパー	講義用ノートを準備する。
2	キリスト教とボランティア：社会に尽くす活動をした人々	講義、ディスカッション、質疑応答、リアクションペーパー	ハンドアウトを読んで関連する事柄を調べる。
3	秦野の地域的特徴と課題(はだの学)：サービスラーニングを行う秦野はどんな都市か	講義、ディスカッション、質疑応答、リアクションペーパー	秦野市について興味のある事柄を調べる。
4	特別な個性を持つ子どもたち：サービスラーニングを通して関わる可能性のある多様な子どもたちの捉え方	講義、ディスカッション、質疑応答、リアクションペーパー	ハンドアウトを読んで復習する。
5	異文化理解：言語や文化の異なる人々との協働	講義、ディスカッション、質疑応答、リアクションペーパー	関連する新聞記事などを自分で調べる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	秦野市の学校におけるボランティアの役割： 開かれた学校教育の現場とは	講義、ディスカッション、質疑応答、リアクションペーパー	レポートと最終回のプレゼンの準備をする。
7	みんなで考えるサービスラーニング：サービスラーニングの意味と目的	ディスカッション、プレゼン、質疑応答、リアクションペーパー	レポートを書く。
その他 特記事項	サービスラーニングへの参加を希望する学生は本科目を取ることを推奨する。活動をしなが ら本講座を履修することも可能である。 ※授業実施日は以下のとおりである。 【春学期】1回目（4/15）、2回目（4/22）、3回目（4/29）、4回目（5/6）、5回目（5/13）、 6回目（5/20）、7回目（5/27） 【秋学期】1回目（9/28）、2回目（10/5）、3回目（10/12）、4回目（10/19）、5回目（10/26）、 6回目（11/9）、7回目（11/16）		

科目名	SLE301: サービスラーニング (小中学校日本語支援 A)			担当教員	河北 祐子	
開講期	春	開講時限	月木2限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	3	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-①
キーワード	年少者日本語教育、学校とボランティア、多文化共生、自己肯定感					
授業の概要	本授業ではサービスラーニング (カレッジフレンド) に参加し、学期中秦野市の小中学校に在籍する外国人児童生徒の日本語および教科学習の支援を行う。サービスラーニングでは、決められた学校で木曜日2限 (学期中12回) に支援活動を行い、月曜日には学内で年少者への日本語支援の方法や他言語環境の子どもの発達について学ぶ。					
達成目標 (授業の目的)	グローバル化が進む現代社会における外国人児童生徒を取り巻く環境や教育課題を理解できるようになる。特に日本の学校で学ぶ外国人児童生徒の言語の発達について、理論を理解し、当事者の立場からも考察できるようになる。地域の課題を理解し、多文化共生に向けて自ら行動できるようになる。					
到達目標 (学修成果)	① 支援対象者の言語的ニーズをつかみ、相手に合わせた指導の工夫ができるようになる。 ② サービスラーニングを通して、社会人として成長する。 ③ 地域の課題に対する理解が進み、多文化共生的な視点から意見を発表し、文章にまとめられるようになる。					
評価方法	① 授業への積極参加		35%			
	② カレッジフレンドへの参加		35%			
	③ プレゼンテーションとレポート		30%			
評価基準	① 授業への積極参加：授業でディスカッションに積極的に参加し、意見を述べているか。 ② カレッジフレンドへの参加、ふり返り：活動に参加し、ふり返りを記述しているか。 ③ プレゼンテーションとレポート：1学期間の活動をまとめ、テーマに従って活動内容を分析しているか。 ※成績評価はパス/フェイルのみ。					
準備学修の時間	本科目の一回 (100分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	外国につながる児童生徒をその保護者、その多様性を豊かさに変える。	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書8-24頁を読んで、ノートにまとめる。
2	秦野市における多文化化の現状	講義、ディスカッション、質疑応答	ハンドアウトを読んで、ノートにまとめる。
3	グローバル化と日本の学校文化	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書26-39頁を読んで、ノートにまとめる。
4	多様な先生、多様な児童支援の方法	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書42-52頁を読んで、ノートにまとめる。
5	低学年の児童の支援方法	講義、ディスカッション、質疑応答	支援方法をノートにまとめる。
6	来日もない児童の支援方法	講義、ディスカッション、質疑応答	支援方法をノートにまとめる。
7	教科学習の支援方法 支援効果を上げるリソースルームの利用	講義、ディスカッション、質疑応答	支援方法をノートにまとめる。
8	実習①：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	実習のふり返りと報告	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、支援をふり返る。
10	実習②：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
11	実習のふり返りと報告 外国人保護者が捉える日本の学校文化	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、支援をふり返る。
12	実習③：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
13	実習のふり返りと報告 教科学習の難しさ①：小学校	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、支援をふり返る。
14	実習④：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
15	実習のふり返りと報告 言語とアイデンティティ	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、支援をふり返る。
16	実習⑤：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
17	実習のふり返りと報告 教科学習の難しさ②：中学校	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、支援をふり返る。
18	実習⑥：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
19	実習のふり返りと報告 支援方法の紹介	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、支援をふり返る。
20	実習⑦：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
21	実習のふり返りと報告 エンパワメント	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、支援をふり返る。
22	実習⑧：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
23	実習のふり返りと報告 子どもと社会参加	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、支援をふり返る。
24	実習⑨：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
25	実習のふり返りと報告 学校、先生、子ども、保護者	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、支援をふり返る。
26	実習⑩：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。 プレゼンテーション準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	全体のふり返り	ディスカッション、質疑応答	プレゼンテーション準備
28	プレゼンテーション、総括	ディスカッション、質疑応答	レポートを書く。

テキスト	松永典子『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性ハンドブック』（金木犀舎）
履修条件、前提科目	本講の履修には「サービスマーケティング入門講座」の単位を修得していることが条件となる。
その他特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。

科目名	SLE302: サービスラーニング (小中学校日本語支援B)			担当教員	宮崎 幸江	
開講期	秋	開講時限	月木2限		研究室	4217
分類	選択	単位	3	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-①
キーワード	年少者日本語教育、バイリンガリズム、多文化共生、アクティブラーニング					
授業の概要	この授業では、サービスラーニング (カレッジフレンド) に参加し、学期中秦野市の小中学校に在籍する外国人児童生徒の日本語及び教科学習の支援を行う。サービスラーニングでは、決められた学校で木曜日の2限 (学期中11回) に活動を行い、月曜日には学内で年少者への日本語支援の方法やバイリンガル環境の子どもの発達について学ぶ。					
達成目標 (授業の目的)	グローバル化が進む現代社会における外国人児童生徒を取り巻く環境や教育課題を理解できるようになる。特に日本の学校で学ぶ外国人児童生徒の言語の発達について、理論を理解し、当事者の立場からも考察できるようになる。地域の課題を理解し、多文化共生に向けて自ら行動できるようになる。					
到達目標 (学修成果)	① 支援対象の言語的ニーズをつかみ相手に合わせた指導の工夫ができるようになる。 ② 地域の課題に対する理解が進み、多文化共生的な視点から意見を持てるようになる。 ③ サービスラーニングを通して、社会人として成長する。					
評価方法	① ディスカッションへの積極参加 : 35% ② カレッジフレンドへの参加 : 35% ③ プレゼンテーションとレポート : 30%					
評価基準	① 授業への積極参加 : ディスカッションに積極的に参加し意見を述べているか。 ② カレッジフレンドへの参加 : 活動に参加し振り返りを記述しているか。 ③ プレゼンテーションとレポート : 一学期間の活動をまとめ、テーマに従って活動内容を分析しているか。 ※成績評価はパス/フェイルのみ					
準備学修の時間	本科目の一回 (100分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	外国につながる児童生徒とその保護者 その多様性を豊かさに変える	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書 8～24 頁を読んでノートにまとめる。
2	秦野市における多文化化の現状：グローバル化の影響と外国籍市民の増加	講義、ディスカッション、質疑応答	ハンドアウトを読んでノートにまとめる。
3	バイリンガルの言語発達と教育課題：モノリンガルの子どもの違い	講義、ディスカッション、質疑応答	ハンドアウトを読んでノートにまとめる。
4	グローバル化と日本の学校文化：言語文化の多様性を持つ人々への対応	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書 26～39 頁を読む。
5	実習①：小中学校での外国人児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
6	実習①の振り返りと報告 多様な先生、多様な児童	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書 42～52 頁を読む。
7	実習②：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
8	実習②の振り返りと報告 学校に入って気づいたこと	講義、ディスカッション、質疑応答	自分の支援をもう一度振り返り、支援計画を立てる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	実習③：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
10	実習③の振り返りと報告、外国人児童生徒にとっての教科学習の難しさ	講義、ディスカッション、質疑応答	自分の支援をもう一度振り返り、支援計画を立てる。
11	実習④：小中学校での外国人児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
12	実習⑤：小中学校での外国人児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
13	実習④⑤の振り返りと報告 外国人保護者が捉える日本の学校文化	講義、ディスカッション、質疑応答	自分の支援を振り返り、支援計画を立てる。教科書 54～66 頁を読む。
14	実習⑥：小中学校での外国人児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
15	実習⑥の振り返りと報告 言語とアイデンティティ	講義、ディスカッション、質疑応答	自分の支援をもう一度振り返り、支援計画を立てる。
16	実習⑦：小中学校での外国人児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
17	実習⑦の振り返りと報告 支援方法の紹介	講義、ディスカッション、質疑応答	自分の支援をもう一度振り返り、支援計画を立てる。
18	実習⑧：小中学校での外国人児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
19	実習⑧の振り返りと報告 多様性を持つ子どものクラス運営の課題	講義、ディスカッション、質疑応答	自分の支援を振り返り、支援計画を立てる。教科書 66～85 頁を読む。
20	実習⑨：小中学校での外国人児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
21	実習⑨の振り返りと報告、子どもたちをエンパワーすることの意味と方法	講義、ディスカッション、質疑応答	自分の支援をもう一度振り返り、支援計画を立てる。
22	実習⑩：小中学校での外国人児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
23	実習⑩の振り返りと報告 学校による違い	講義、ディスカッション、質疑応答	自分の支援をもう一度振り返り、支援計画を立てる。
24	実習⑪：小中学校での外国人児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、又は個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
25	実習⑪の振り返りと報告 日本の教育政策の課題	講義、ディスカッション、質疑応答	自分の支援をもう一度振り返り、支援計画を立てる。
26	多言語環境の子どもの発達と教育	講義、ディスカッション、質疑応答	プレゼンテーションの準備をする。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	全体の振り返り、プレゼンテーション	全体の振り返り、プレゼンテーション	プレゼンテーション準備をする。
28	プレゼンテーション、総括	ディスカッション、質疑応答	レポートを書く。

テキスト	松永典子編著『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック』（金木犀舎）
履修条件、前提科目	本講の履修には「サービスマーケティング入門講座」の単位を修得していることが条件となる。
その他特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある日は直接派遣先へ行くことになるため、月木 1 限の科目を履修することはできない。

科目名	SLE303: サービスラーニング (地域日本語支援 A)			担当教員	宮崎 幸江	
開講期	春	開講時限	火金 5 限		研究室	4217
分類	選択	単位	3	標準受講年次	1・2 年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-①
キーワード	多文化共生、「やさしい日本語」、社会参加、居場所、参加型学習					
授業の概要	日本に住む外国籍の人々に対する日本語や子どもの学習支援を行うために必要な知識やスキルを講義で学び、実習では実際に担当する学習者に学期を通して支援を行う。毎回、授業の中で実習での課題を振り返り、改善する方法を考え実践することを繰り返す。学期末には学生は本授業を通して学んだことを応用したコミュニティフレンド参加者のためのイベントを企画実践する。					
達成目標 (授業の目的)	グローバル化により多文化化が進む日本社会において、「多文化共生社会」実現のために、地域社会における外国籍市民の課題について理解し、課題解決に向けた行動を起こせる人材を育成することが、本講の目的である。					
到達目標 (学修成果)	日本語非母語話者の日本語のニーズを理解し、相手に合わせてコミュニケーションをはかることができる。支援活動の計画・実践・ふり返り・改善という一連の行動を粘り強く行うことができる。外国籍市民を含む日本の地域社会に目を向け、地域の課題を当事者として考えることができる。					
評価方法	① 授業への積極参加：30% ② 実習 (火曜日のコミュニティフレンド)：30% ③ プレゼンテーション：40%					
評価基準	① 授業時のふり返りや質疑応答に積極的に参加しているか。 ② 実習現場で積極的に行動しているか。支援の準備とふり返りの内容。 ③ 学期末のプレゼンテーションで、コミュニティフレンドの活動でどのように支援を改善したか、サービスラーニングで学んだことを客観視できるかを評価する。 ※成績評価はパス/フェイルのみ					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	コミュニティフレンド活動とは何か：対象・目的・支援方法 B：「日本語これだけ」トピック 1	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック 1 を読んで、ノートにまとめる。
2	A：1 章 日本の多文化化とこれからの外国人保護者支援 B：「日本語これだけ」トピック 2	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック 2 を読んで、ノートにまとめる。
3	実習 1：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
4	実習ふり返り A：2 章 子育ての言葉 B：「日本語これだけ」トピック 3	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック 3 を読んで、ノートにまとめる。
5	実習 2：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
6	実習ふり返り A：2 章 どちらも大切な母語と日本語 B：「日本語これだけ」トピック 4	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック 4 を読んで、ノートにまとめる。
7	A：2 章 外国人保護者に「日本語で伝えるコツ」 B：「日本語これだけ」トピック 5	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック 5 を読んで、ノートにまとめる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	実習3：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
9	実習ふり返り B：「日本語これだけ」トピック6	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック6を読んで、ノートにまとめる。
10	実習4：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
11	実習ふり返り B：「日本語これだけ」トピック7	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック7を読んで、ノートにまとめる。
12	実習5：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
13	実習ふり返り B：「日本語これだけ」トピック8	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック8を読んで、ノートにまとめる。
14	実習6：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
15	実習ふり返り B：「日本語これだけ」トピック9	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック9を読んで、ノートにまとめる。
16	実習7：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
17	実習ふり返り B：「日本語これだけ」トピック10	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック10を読んで、ノートにまとめる。
18	実習8：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
19	実習ふり返り B：「日本語これだけ」トピック11	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック11を読んで、ノートにまとめる。
20	実習9：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
21	実習ふり返り B：「日本語これだけ」トピック12	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック12を読んで、ノートにまとめる。
22	実習10：コミュニティフレンドでの日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
23	実習ふり返り B：「日本語これだけ」トピック13	講義、質疑応答 グループワーク	B：トピック13を読んで、ノートにまとめる。
24	実習11：コミュニティフレンドで日本語支援	講義、コミュニティフレンド参加	活動記録を書く。次回の計画、準備をする。
25	A：3章 外国人保護者支援の実際	プレゼンテーション、 質疑応答、講義	A：3章を読んで、ノートにまとめる。
26	A：4章 園の多文化化のために知っておきたいこと	講義、質疑応答 グループワーク	A：4章を読んで、ノートにまとめる。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	プレゼンテーションとSL活動のふり返り	プレゼンテーション、 質疑応答、講義	プレゼンテーション準備
28	プレゼンテーションとSL活動のふり返り	プレゼンテーション、 質疑応答、講義	プレゼンテーション準備

テキスト	A: 庵功雄『にほんごこれだけ1』（ココ出版） B: 咲間まり子『保育者のための外国人保護者支援の本』（かもがわ出版）
履修条件、 前提科目	本講の履修には「サービスマニエール入門講座」の単位を修得していることが条件となる。
その他 特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある火曜日は4限終了後派遣先へ移動して実習を行う。



科目名	SLE304: サービスラーニング (地域日本語支援 B)			担当教員	河北 祐子	
開講期	秋	開講時限	火金 5 限		研究室	4号館 2階 講師控室
分類	選択	単位	3	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-①
キーワード	多文化共生、「やさしい日本語」、地域日本語教室、居場所、自己肯定感					
授業の概要	サービスラーニング (コミュニティフレンド) 活動参加を通じて、学校外での外国人家庭の子どもたちや保護者に対する日本語および教科学習支援を行う。火曜日午後 6 時から 7 時半まで「はだのこども館」におけるコミュニティフレンド活動に参加する。金曜日 5 限には学内において日本で育つ外国つながりの子どもたちおよび、その保護者を巡る諸問題や現状について学ぶとともに活動方法の向上について考える。					
達成目標 (授業の目的)	地域に増える外国つながりの子どもをとりまく状況について理解し、それぞれにあった支援活動を考えられるようになる。実際の活動を通じた経験をふり返り、課題を発見し、必要な解決行動を模索、実践するという省察行動がとれるようになる。1 対 1 の活動に留まらない周りの人々との協働を心がける広い視野を持つことを目指す。					
到達目標 (学修成果)	① 支援対象者の言語的ニーズをつかむことができる。 ② 準備外の事態が起きたときの対応ができる、目の前の事象に捉われずに子どもの将来を考えた支援活動ができるようになる。 ③ 多文化共生社会づくりを担う人材として成長する。					
評価方法	① 授業への積極的、協力的参加		30%			
	② コミュニティフレンドへの継続的参加		30%			
	③ 学期末イベント企画実施		40%			
評価基準	① 授業への積極的、協力的参加：授業でのディスカッションに積極的に参加し、意見を述べているか。活発なディスカッションをするために協力しているか。 ② コミュニティフレンドへの継続的参加：活動に継続的に参加し、自らの活動を省察しているか。 ③ 学期末イベント企画実施：1 学期間の活動のまとめとして、子どもの学びと成長を目指したイベントを企画実施したかどうか。 ※成績評価はパス/フェイルのみ					
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190 分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	日本で育つ外国人家庭の子ども 言語と教育問題、リソースルーム利用方法	講義、質疑応答 グループワーク	教科書 8-24 ページを読んでおく。
2	グローバル化と日本の学校文化 リソースルーム利用方法	講義、質疑応答 グループワーク	教科書 26-39 ページを読んでおく。
3	居場所としての地域日本語教室 ボランティアと省察	講義、質疑応答 グループワーク	指定された DVD をみておく。
4	多様な子どもたちと日本語支援 支援の方法：教科書、各種教材	講義、質疑応答 グループワーク	指定された DVD をみておく。
5	多様な保護者 成人への日本語支援「やさしい日本語」	講義、質疑応答 グループワーク	教科書 42-52 ページを読んでおく。
6	支援相手を知る：人間関係の構築 次回、次々回の計画と準備	講義、質疑応答 グループワーク	リソースルームの教材を見ておく。実習準備をする。
7	実習①：「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティフレンド 参加	活動への準備をしておく。 活動記録を書く。
8	実習②：「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティフレンド 参加	活動への準備をしておく。 活動記録を書く。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	外国人保護者が捉える日本の学校文化① 多文化共生	講義、質疑応答 グループワーク	教科書 54-70 ページを読んで おく。
10	実習のふり返りと報告 課題を共有し、改善策を考える（省察）	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入す る。
11	実習③：「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティフレンド 参加	活動への準備をしておく。 活動記録を書く。
12	実習のふり返りと報告 次回の計画と準備	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入す る。
13	実習④：「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティフレンド 参加	活動への準備をしておく。 活動記録を書く。
14	実習のふり返りと報告 課題を共有し、改善策を考える（省察）	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入す る。
15	外国人保護者が捉える日本の学校文化② 実習⑤の計画と準備	講義、質疑応答 グループワーク	教科書 70-84 ページを読んで おく。記録記入。
16	第二世代育成と社会参加 実習⑥の計画と準備	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入す る。
17	実習⑤：「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティフレンド 参加	活動への準備をしておく。 活動記録を書く。
18	実習⑥：「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティフレンド 参加	活動への準備をしておく。 活動記録を書く。
19	実習のふり返りと報告 課題を共有し、改善策を考える（省察）	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入す る。
20	実習⑦：「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティフレンド 参加	活動への準備をしておく。 活動記録を書く。
21	実習のふり返りと報告 課題を共有し、改善策を考える（省察）	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入す る。
22	実習⑧：クリスマスイベントによる日本語 支援、自己肯定感を作り出す	コミュニティフレンド 参加	活動への準備をしておく。 活動記録を書く。
23	これまでの実習のふり返りと報告 省察シートを作る。	講義、質疑応答 グループワーク	省察を活かし、記録に記入す る。
24	最終回へ向けた実習計画を作る。	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入す る。
25	実習⑨：「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティフレンド 参加	活動への準備をしておく。 活動記録を書く。
26	実習のふり返りと報告 今学期の支援全体をふり返る	講義、質疑応答 グループワーク	学期中の記録を見直してお く。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	実習⑩「まとめの会」（学びの成果報告）実 施	コミュニティフレンド 参加	子どもへの「あゆみ」（コミ フレ版）を作成しておく。
28	全体のふり返り 講評	ディスカッション、質 疑応答	活動をふり返り、学びを深め る。

テキスト	松永典子『多文化・多様性ハンドブック』（金木犀舎）
履修条件、 前提科目	本講の履修には「サービスマーケティング入門講座」の単位を修得していることが条件となる。
その他 特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあ たる。

科目名	EDU322: リテラシーと多文化教育			担当教員	M. Lupas	
開講期	秋	開講時限	火金5限		研究室	4206
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				3-④, 4-⑤
キーワード	Literacy education, multicultural education, cross-cultural education, teaching young learners					
授業の概要	The course is taught in English and introduces the principles of reading and writing instruction used in Kindergarten through elementary school grade 5 in the United States and then analyzes videos of classroom teaching in the United States to understand how these principles are applied. Students can use the knowledge gained in this course to improve their skills as language tutors of English or Japanese. They will also gain understanding of cross-cultural differences between the American and Japanese elementary school education systems.					
達成目標(授業の目的)	To understand the basic principles of teaching how to read and write in monolingual, bilingual, and multilingual classrooms. To become familiar with methods and materials used to teach literacy skills at the elementary school level. To become aware of cross-cultural similarities and differences in approaches to literacy education.					
到達目標(学修成果)	Students will aim to do the following: (1) Understand and give examples of the key components of teaching reading and how they are carried out in the elementary school classroom. (2) Use a checklist to describe, analyze, and evaluate video case studies of teaching. (3) Summarize and critique the contents of video case studies both orally and in writing. (4) Compare their own learning experiences with those depicted in the videos and readings.					
評価方法	Participation and discussion 25% Tests on vocabulary and the key components of literacy 25% Reaction papers 50%					
評価基準	(1) Participation and discussion: Demonstrate accurate comprehension of the readings and videos as well as show ability to reflect on the contents by responding effectively to the instructor's questions orally or through in-class writing tasks (e.g., checklists, note-taking). (2) Tests: Demonstrate understanding of the definition of vocabulary, keywords and key components of literacy. (3) Reaction papers: Punctuality, completeness and detail in describing, analyzing, and evaluating the video cases studies of teaching. Ability to think critically about the video contents (basic components of reading, key terminology, and concepts of literacy instruction as demonstrated in the videos and readings. Ability to compare one's own learning experiences with those depicted in the videos.					
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Basic reading skills, oral language, phonological awareness, phonics, fluency, vocabulary	video, lecture, reading	preview the textbook
2	Grades K-2: Video 1: Becoming readers and writers	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
3	Present reaction paper. Textbook reading: "Oral Language" p.8	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
4	Grades K-2: Video 2 "Writer's Journal" (level appropriate independent writing)	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
5	Present reaction paper. Textbook reading: "Phonological Awareness" p.9	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
6	Grades K-2: Video 3: Building oral language	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	Present reaction paper. Textbook reading: “Fluency” p.11	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
8	Grades K-2: Video 4: Thalia learns the details Bilingual schools	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
9	Present reaction paper. Textbook reading: “Learning Vocabulary” p.12	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
10	Grades K-2: Video 5: Assessment driven instruction. Test 1	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
11	Present reaction paper. Textbook reading: “Prior Knowledge” p.13	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
12	Grades K-2: Video 6: Cassandra becomes a fluent reader. Using visual clues.	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
13	Present reaction paper. Return and go over test 1. Textbook reading: “Comprehension” p.14	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
14	Grades K-2: Video 7: Connecting Skills to Text Phonics	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
15	Present reaction paper. Textbook reading: “Motivation” p.15	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
16	Grades K-2: Video 8: Promoting readers as leaders	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
17	Present reaction paper. Textbook reading: “Integrated Reading” p.16	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
18	Grades K-2: Video 11: Staying on Topic Autonomy	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
19	Present reaction paper. Textbook reading: “Assessment” p.18	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
20	Grades 3-5: Workshop 1: Creating contexts for learning. Test 2	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
21	Present reaction paper. Textbook reading: “Culture factor” p. 19	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
22	Grades 3-5: Workshop 2: Fluency and word study. Return and go over test 2.	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
23	Present reaction paper. Textbook reading: “The Role of Practice” p.20	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
24	Grades 3-5: Workshop 3: Building comprehension	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
25	Present reaction paper. Textbook reading: “Conclusion” p.21	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
26	Grades 3-5: Workshop 4: Writing (reading and writing connection). Test 3	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	Present reaction paper. Discussion. Return and go over test 3.	group work, video, discussion	write a reaction paper
28	Review and individual consultations.	Lecture, one-on-one consultations	read video description handout

テキスト	1. Elizabeth Pang and others. Teaching Reading (UNESCO International Bureau of Education, PDF). 2. Videos and handouts from <a href="http://learner.org">http://learner.org</a> and other sources.
------	---

